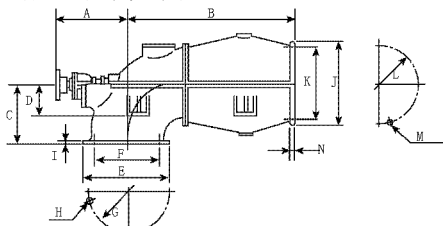
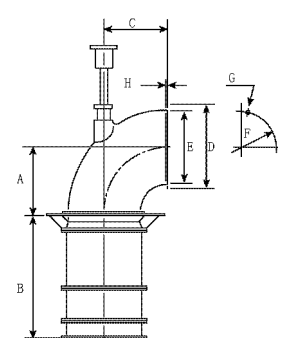
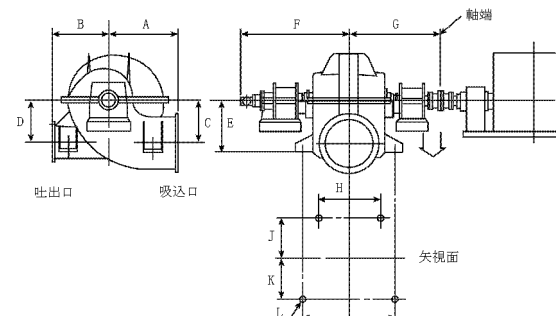
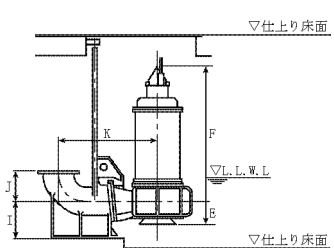
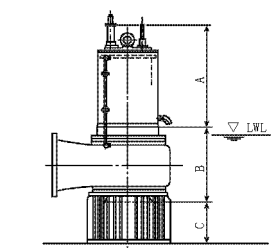


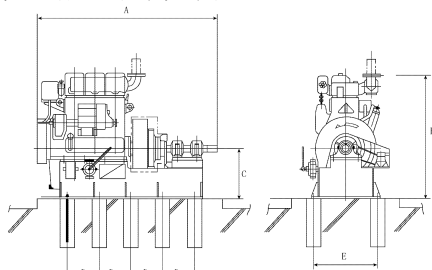
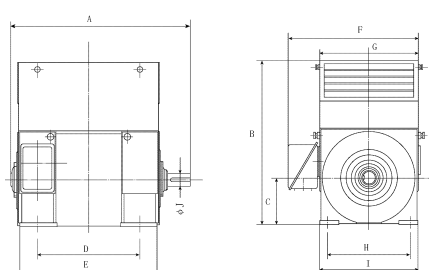
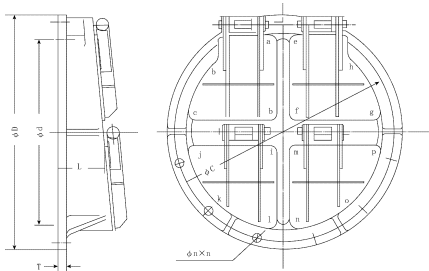
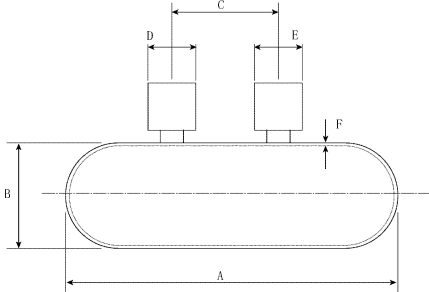
第2項 直接測定による出来形管理

1. 用排水ポンプ設備

工 種		分類	項 目	管理基準値 (mm)	測 定 基 準
1用排水ポンプ設備 (製作)	1. 主ポンプ	A	ケーシング外形寸法 (回転方向を含む)	承諾図書による。	全台数について測定を行う。但し、汎用ポンプの場合は監督職員と協議し、測定台数を決定する。
		A	羽根車とケーシングのクリアランス	承諾図書による。	全台数について測定を行う。但し、汎用ポンプの場合は監督職員と協議し、測定台数を決定する。
		A	その他外観構造検査	承諾図書による。	基礎ボルト穴位置、ベース、架台等の寸法を測定する。 また、銘板記載内容、油洩れ、鑄肌、溶接部について、目視にて確認する。
		B		承諾図書による。	軸芯高さ、フランジ面の平面度、直角度等の寸法を測定する。
	2. 主原動機	A	外形寸法 (回転方向を含む)	承諾図書による。	承諾図書に基づき、寸法を測定する。
		A	外観構造検査	承諾図書による。	基礎ボルト穴位置、ベース、架台等の寸法を測定する。 また、銘板記載内容、油洩れ、鑄肌、溶接部について、目視にて確認する。
		B		承諾図書による。	軸芯高さ、フランジ面の平面度、直角度等の寸法を測定する。
	3. 吸吐出管	B	ダクタイル鑄鉄管	JIS G 5526・JIS G 5527の寸法許容差による。	承諾図書に基づき、寸法を測定する。
		B	水輸送用塗覆装鋼管の異形管	JIS G 3451の寸法許容差による。	承諾図書に基づき、寸法を測定する。
		B	配管用アーク溶接炭素鋼鋼管	JIS G 3457の寸法許容差による。	承諾図書に基づき、寸法を測定する。
		B	管フランジ	JIS B 2220・JIS B 2238・JIS B 2239の寸法許容差による。	承諾図書に基づき、寸法を測定する。
	4. フラップ弁	B	外形寸法	承諾図書による。	承諾図書に基づき、寸法を測定する。
		B	外観検査	承諾図書による。	フランジ面の平面度、直角度等の寸法を測定する。 また、鑄出しマーク内容、鑄肌を目視にて確認する。
B		フランジ	JIS B 2220・JIS B 2238・JIS B 2239の寸法許容差による。	承諾図書に基づき、寸法を測定する。	

管 理 方 式		測 定 個 所 標 準 図	摘 要
結果一覧表 によるもの	点検表 によるもの		
様式1-1		<p>1. 主ポンプの外形寸法測定例</p>  <p>① 横軸ポンプ</p>  <p>② 立軸ポンプ</p>  <p>③ 渦巻ポンプ</p>  <p>④ 水中ポンプ (固定式)</p>  <p>⑤ 水中ポンプ (着脱式)</p>	
様式1-1			
様式1-1	様式1-3		
様式1-1	様式1-3		
様式1-1			
様式1-1	様式1-3		
様式1-1	様式1-3		
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1	様式1-3		
様式1-1			

工 種	分類	項 目	管理基準値 (mm)	測 定 基 準	
1用排水ポンプ設備 (製作)		5. 自家発電設備	6. 電気設備による。	6. 電気設備による。	
		6. 盤類 (監視・制御・機側)	6. 電気設備による。	6. 電気設備による。	
		7. 燃料貯油槽	B 外形寸法	承諾図書による。	肉厚、内径等の寸法を監督職員の指示により測定する。(消防法の規定による。)
		8. 天井クレーン	B 外形寸法	JIS B 8801・JIS B 8806・JIS B 8807 による。	承諾図書に基づき、寸法を測定する。
			B 据付関連寸法 (上屋との関係含)		基礎ボルト穴位置、ベース、架台等の寸法も含めて測定する。
		9. 減速機・流体継手	B 外形寸法 (回転方向含む)	承諾図書による。	承諾図書に基づき、寸法を測定する。
			B 外観構造検査	承諾図書による。	基礎ボルト穴位置、ベース、架台、軸芯高さ、フランジ面の平面度、直角度等の寸法を測定する。また、銘板記載内容、油洩れ、鑄肌、溶接部について、目視にて確認する。
		10. 吸吐出弁	B 外形寸法	承諾図書による。	承諾図書に基づき、寸法を測定する。
			B 外観構造検査	承諾図書による。	基礎ボルト穴位置、ベース、架台、軸芯高さ、フランジ面の平面度、直角度等の寸法を測定する。また、銘板記載内容、油洩れ、鑄肌、溶接部について、目視にて確認する。
			B フランジ	JIS B 2220・JIS B 2238・JIS B 2239 の寸法許容差による。	承諾図書に基づき、寸法を測定する。

管 理 方 式		測 定 個 所 標 準 図	摘 要
結果一覧表 によるもの	点検表 によるもの		
		2. 主原動機の外形寸法測定例	
			
様式1-1	様式1-3		① ディーゼルエンジン
様式1-1			
様式1-1			② 電動機
様式1-1	様式1-3	4. フラップ弁の外形寸法測定例	
			
様式1-1			逆流防止弁
		8. 燃料貯油槽の外形寸法測定例	
			
		燃料貯油槽	

工 種		分類	項 目	管理基準値 (mm)	測 定 基 準
1 用排水ポンプ 設備 (据付)	1. 共通基準				
	(1) ソールプレート及び仮ライナー	B	中心線のズレ	±2.0 以内	
		B	高さの精度	±3.0 以内	
		B	水平度	±0.05 mm/m 以内	ソールプレート及び据付用仮ライナーは3点以上挿入する。 水準器をソールプレートに当て測定するか又はストレートエッジをあて測定する。 ソールプレートの芯打ちは2方向測定が望ましい。
(2) エンジン	A	デフレクション	測定値 ピストン行程 ×2/10,000 mm 以内	測定点 30°、90°、180°、270°、330°	

管 理 方 式		測 定 個 所 標 準 図	摘 要
結果一覧表 によるもの	点検表 によるもの		
様式1-1			様式2-5を 摘要。
様式1-1		<p>(注) B点はゲージを当てているためロットがBottomにくることを防ぎ測定できない。</p> <ol style="list-style-type: none"> 1. クランク軸腕部aの撓み量を測定する。但しクランクピンをBcの位置に置いた時の値を0とする。 2. クランクアームが外に開いた状態の時、ダイヤルゲージは⊖を示す。この場合測定記録は⊕で示す。(fig. 1) 3. クランクアームが内側に閉じる状態の時、ダイヤルゲージは⊕を示す。この場合測定記録は⊖で示す。(fig. 2) 4. 単位は1/100 mm <p>fig. 1 fig. 2</p> <p>(+) (-)</p>	様式2-16 を摘要。

工 種	分類	項 目	管理基準値 (mm)	測 定 基 準	
1用排水ポンプ設備 (据付)	2. 立軸ポンプ (1) ポンプ	A	中心線のズレ	±2.0 以内	
		A	高さの精度	±3.0 以内	
		A	水平度	0.05 mm/m 以内	
	(2) ポンプと 減速機	A	芯ズレ	±0.1 以内	ダイヤルゲージを減速機側カップリングに取り付け、減速機軸を90°、180°、270°、360°回転させ測定する。 (Aの測定は間隙が3～5mmの時は、シックネスゲージで測定しても良い。)
		A	面ブレ	±0.1 以内	芯ズレの測定方法に準ずる。
	(3) 減速機と エンジン	A	水平度	0.5 mm/m 以内	台床に水準器を当て、水平度を測定する。
		A	芯ズレ	±0.05 以内	ダイヤルゲージを減速機側カップリングに取り付け、減速機軸を90°、180°、270°、360°回転させ測定する。
		A	面ブレ	±0.1 以内	芯ズレの測定方法に準ずる。

管 理 方 式		測 定 個 所 標 準 図	摘 要
結果一覧表 によるもの	点検表 によるもの		
様式1-1			様式2-1を 摘要。
様式1-1			様式2-5〃。
様式1-1			様式2-1を 摘要。
様式1-1			様式2-1を 摘要。
様式1-1			様式2-1を 摘要。
様式1-1			様式2-1を 摘要。
様式1-1			様式2-1を 摘要。
様式1-1			様式2-1を 摘要。

工 種	分類	項 目	管理基準値 (mm)	測 定 基 準	
1用排水ポンプ設備 (据付)	3. 横軸ポンプ (1) ポンプ	A	中心線のズレ	±2.0 以内	
		A	高さの制度	±3.0 以内	
		A	水平度	0.1 mm/m 以内	1) 軸芯の水平度の測定は次のいずれかで行う。 ①カップリングの端面 ②満水検知器取付面 ③吐出口にストレートエッジ使用 ④上下合せ面 2) 軸芯と直角方向の水平度は満水検知器面又は 上下合わせ面で測定する。
	(2) ポンプと 減速機	A	芯ズレ	±0.05 以内	ダイヤルゲージを減速機側カップリングに取り 付け、減速機軸を90°、180°、270°、 360° 回転させ測定する。 (シックネスゲージで測定した場合は±0.1 mm 以内とする。)
		A	面ブレ	±0.05 以内	芯ズレの測定方法に準ずる。
	(3) 減速機と エンジン	A	水平度	0.3 mm/m 以内	台床に水準器を当て、水平度を測定する。
		A	芯ズレ	±0.05 以内	ダイヤルゲージを減速機側カップリングに取り 付け、減速機軸を90°、180°、270°、 360° 回転させ測定する。
		A	面ブレ	±0.1 以内	芯ズレの測定方法に準ずる。

管 理 方 式		測 定 個 所 標 準 図	摘 要
結果一覧表 によるもの	点検表 によるもの		
様式1-1			様式2-7を 摘要。
様式1-1			様式2-6〃。
様式1-1			様式2-8を 摘要。
様式1-1			様式2-2を 摘要。
様式1-1			様式1-2を 摘要。
様式1-1			様式2-3を 摘要。
様式1-1			様式2-4を 摘要。

工 種		分類	項 目	管理基準値 (mm)	測 定 基 準
1用排水ポンプ設備 (据付)	4. 水中ポンプ (1) ポンプ	A	中心線のズレ	±2.0 以内	
		A	水平度	1/1000 以内	固定曲管吐出フランジ面にて測定する。
		A	垂直度	1/100 以内	ガイドパイプ支えから下げ振りを下ろし、固定曲管のガイドパイプ嵌合部中心とのずれを測定する。

管 理 方 式		測 定 個 所 標 準 図	摘 要
結果一覧表 によるもの	点検表 によるもの		
様式1-1			様式1-2を 摘要。
様式1-1			様式2-9を 摘要。
様式1-1			様式2-10 を摘要。

2. 水門設備

①河川・水路用水門

(1) 3方水密ローラゲート寸法

工 種	分類	項 目	管理基準値 (mm)	測 定 基 準	
2 水門設備 ① 河川・水路用水門設備 (製作)	1. 扉体	原則として水密ゴム取付面を上にして水平位置に仮組み計測する。下側に計測に必要な空間を確保する。			
	A	扉体の全幅 (a)	±10	上下各1箇所を測定する。	
	A	扉体の全高 (b)	±10	左右各1箇所を測定する。	
	A	主桁の高さ (c ₁)	B.H<0.5 ±2 0.5≤B.H<1.0 ±3 1.0≤B.H ±4	各桁1本につき2箇所を測定する。	B:フランジ幅(m) H:腹板高(m)
	A	端桁の高さ (c ₂)		左右各2箇所を測定する。	
	A	水密ゴム受座から主ローラ踏面までの距離 (c ₃)	±5、±3	「L形ゴム戸溝内タイプ」 左右各3箇所(上・中・下)を測定する。	
			±5	「L形ゴム横付タイプ」 左右各2箇所を測定する。	
	A	基準点对角長の差(d)	10	基準点間の距離の差を測定する。 (d = d ₁ - d ₂)	
	A	主ローラ支間 (e ₁)	±10	上下各1箇所を測定する。	
	A	主ローラ中心間距離(e ₂)	±5	左右各1箇所を測定する。	
	A	主ローラから扉体端までの距離(e ₃)	±5	主ローラから扉体上端及び下端までの距離を左右各1箇所測定する。	
	A	主ローラ踏面の偏差(f)	1	全主ローラを測定する。	
	B	主ローラ踏面からサイトローラまでの距離(g)	±5	上下左右各1箇所測定する。	
	B	水密幅(h)	±10、±6	「L形ゴム横付タイプ」 水密ゴム受座の中心間距離を長さ2m毎に測定する。(2m以下の場合は上下各1箇所測定する。)	
			±10	「L形ゴム戸溝内タイプ」 水密ゴム受座の中心間距離を長さ2m毎に測定する。(2m以下の場合は上下各1箇所測定する。)	
	B	吊金物中心間距離(i)	±10	吊金物(シーブ)中心間距離を測定する。	
	A	主桁間隔(j)	±5	左右各1箇所を測定する。	
	B	サイトローラ踏面間距離(k)	±10	上下各1箇所を測定する。	
	B	吊金物中心とスプリング間の距離(l)	±3	左右各1箇所を測定する。	
	A	底部の曲がり(m)	±3		
A	扉体の平面度(n)	小形 3 中形 5 大形 7	dの対角基準点4箇所とその交点の計5箇所を測定する。 小形水門:扉体面積10㎡未満 中形水門:扉体面積10㎡以上50㎡未満 大形水門:扉体面積50㎡以上		

管 理 方 式		測 定 個 所 標 準 図	摘 要	
結果一覧表 によるもの	点 検 表 によるもの			
様式1-1		<p>サイドローラ戸溝内の場合</p> <p>L形ゴム横付 L形ゴム戸溝内</p>		
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				

工 種	分類	項 目	管理基準値 (mm)	測 定 基 準		
2 水門設備 ①河川・水路用水門設備 (製作)	2. 戸当り	原則として主ローラ踏面を上にして水平位置に仮組み計測する。				
		A	純径間 (a)	⊕6、⊖10	「L形ゴム横付タイプ」 上下各1箇所を測定する。	
				⊕10	「L形ゴム戸溝内タイプ」 上下各1箇所を測定する。	
		A	主ローラ踏面中心間距離 (b)	⊕10	上下各1箇所を測定する。	
		B	サイドローラ踏面間距離 (c)	⊕10	上下各1箇所を測定する。	
		B	主ローラとフロントローラ踏面間距離 (d)	⊕5	上下各1箇所を測定する。	
		B	側部戸当りと底部戸当りとの関係位置 (e)	⊕3	左右各1箇所を測定する。	
		B	戸当り高さ (f)	⊕10	左右各1箇所を測定する。	
		A	主ローラ踏面板の厚さ (g)	B, H < 0.5 ⊕2 0.5 ≤ B, H < 1.0 ⊕3 1.0 ≤ B, H ⊕4	上下各1箇所を測定する。	B : フランジ幅 (m) H : 腹板高 (m)
		A	主ローラレール桁高さ (h)	上下中央各1箇所を測定する。		
		A	基準点対角長の差 (i)	10	基準点間の距離の差を測定する。 (i = i ₁ - i ₂)	
		A	底部戸当り表面の平面度 (j)	1mm/m	長さ1mの直定規からの変位を測定する。	
		A	底部戸当り表面の真直度 (k)	3	水平基準線からの変位を測定する。	
		A	主ローラ踏面板の真直度 (l)	2 (3)	長さ2m毎に測定する。(2m以下の場合は上下各1箇所測定する。) () 内数値は軽構造部 (水圧荷重の影響や水密の必要がない部分) の許容差を示す。	
		A	主ローラ踏面板の平面度 (m)	1 (2)mm/m	長さ1mの直定規からの変位を測定する。 () 内数値は軽構造部 (水圧荷重の影響や水密の必要がない部分) の許容差を示す。	
		A	側部水密面の真直度 (n)	3	長さ2m毎に測定する。(2m以下の場合は上下各1箇所測定する。)	
		A	側部水密面の平面度 (o)	2mm/m	長さ1mの直定規からの変位を測定する。	
		B	サイドローラ踏面の真直度 (p)	6	長さ2m毎に測定する。(2m以下の場合は上下各1箇所測定する。)	
		B	サイドローラ踏面の平面度 (q)	2 (3)mm/m	長さ1mの直定規からの変位を測定する。 () 内数値は軽構造部 (水圧荷重の影響や水密の必要がない部分) の許容差を示す。	
		3. 開閉装置	(5) 開閉装置寸法による。			

管 理 方 式		測 定 個 所 標 準 図	摘 要	
結果一覧表 によるもの	点 検 表 によるもの			
様式1-1		<p>サイドローラ戸溝内の場合</p>		
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				

(2) 4方水密ローラゲート寸法

工 種	分類	項 目	管理基準値 (mm)	測 定 基 準	
2 水門設備 ① 河川・水路用水門設備 (製作)	1. 扉体	原則として水密ゴム取付面を上にして水平位置に仮組み計測する。下側に計測に必要な空間を確保する。			
	A	扉体の全幅 (a)	±10	上下各1箇所を測定する。	
	A	扉体の全高 (b)	±10	左右各1箇所を測定する。	
	A	主桁の高さ (c ₁)	B.H<0.5 ±2 0.5≤B.H<1.0 ±3 1.0≤B.H ±4	各桁1本につき2箇所を測定する。	B：フランジ幅(m) H：腹板高(m)
	A	端桁の高さ (c ₂)		左右各2箇所を測定する。	
	A	水密ゴム受座から主ローラ踏面までの距離 (c ₃)	±0、±2	左右各2箇所を測定する。	
	A	基準点対角長の差 (d)	10	基準点間の距離の差を測定する。 (d = d ₁ - d ₂)	
	A	主ローラ支間 (e ₁)	±10	上下各1箇所を測定する。	
	A	主ローラ中心間距離 (e ₂)	±5	左右各1箇所を測定する。	
	A	主ローラから扉体端までの距離 (e ₃)	±5	主ローラから扉体上端及び下端までの距離を左右各1箇所測定する。	
	A	主ローラ踏面の偏差 (f)	1	左右各1箇所を測定する。	
	B	主ローラ踏面からサイトローラまでの距離 (g)	±5	上下左右各1箇所測定する。	
	B	水密幅 (h)	±10	水密ゴム受座の中心間距離を長さ2m毎に測定する。(2m以下の場合は上下各1箇所測定する。)	
	B	吊金物中心間距離 (i)	±10	吊金物(シーブ)中心間距離を測定する。	
	A	主桁間隔 (j)	±5	左右各1箇所を測定する。	
	B	サイトローラ踏面間距離 (k)	±10	上下各1箇所を測定する。	
	B	吊金物中心とスプリング間の距離 (l)	±3	左右各1箇所を測定する。	
	B	側部水密高さ (m)	±5	水密ゴム受座の中心間距離を左右各1箇所を測定する。	
	A	底部の曲がり (n)	±3		
	A	扉体の平面度 (o)	小形 3 中形 5 大形 7	dの対角基準点4箇所とその交点の計5箇所を測定する。 小形水門：扉体面積10㎡未満 中形水門：扉体面積10㎡以上50㎡未満 大形水門：扉体面積50㎡以上	

工 種	分類	項 目	管理基準値 (mm)	測 定 基 準		
2 水門設備 ①河川・水路用水門設備 (製作)	2. 戸当り		原則として主ローラ踏面を上にして水平位置に仮組み計測する。			
		A	純径間 (a)	± 10	上下各 1 箇所を測定する。	
		A	主ローラ踏面中心間距離 (b)	± 10	上下各 1 箇所を測定する。	
		B	サイドローラ踏面間距離 (c)	± 10	上下各 1 箇所を測定する。	
		B	主ローラとフロントローラ踏面間距離 (d)	± 5	上下各 1 箇所を測定する。	
		B	側部戸当りと底部戸当りとの関係位置 (e)	± 3	左右各 1 箇所を測定する。	
		B	戸当り高さ (f)	± 10	左右各 1 箇所を測定する。	
		A	呑口高さ (g)	± 5	左右各 1 箇所を測定する。	
		A	主ローラ踏面板と水密面との距離 (h)	± 2	上下各 1 箇所を測定する。	
		A	主ローラ踏面板の厚さ (i)	B, H < 0.5 ± 2 0.5 ≤ B, H < 1.0 ± 3 1.0 ≤ B, H ± 4	上下各 1 箇所を測定する。	B : フランジ幅 (m) H : 腹板高 (m)
		A	主ローラレール桁高さ (j)		上下中央各 1 箇所を測定する。	
		B	基準点対角長の差 (k)	10	基準点間の距離の差を測定する。 ($k = k_1 - k_2 $)	
		A	底部戸当り表面の平面度 (l)	1 mm/m	長さ 1 m の直定規からの変位を測定する。	
		A	底部戸当り表面の真直度 (m)	3	水平基準線からの変位を測定する。	
		A	主ローラ踏面板の真直度 (n)	2 (3)	長さ 2 m 毎に測定する。(2 m 以下の場合は上下各 1 箇所測定する。) () 内数値は軽構造部 (水圧荷重の影響や水密の必要がない部分) の許容差を示す。	
		A	主ローラ踏面板の平面度 (o)	1 (2) mm/m	長さ 1 m の直定規からの変位を測定する。 () 内数値は軽構造部 (水圧荷重の影響や水密の必要がない部分) の許容差を示す。	
		A	水密面の真直度 (p)	2	長さ 2 m 毎に測定する。(2 m 以下の場合は上下各 1 箇所測定する。)	
		A	水密面の平面度 (q)	1 mm/m	長さ 1 m の直定規からの変位を測定する。	
		B	サイドローラ踏面の真直度 (r)	6	長さ 2 m 毎に測定する。(2 m 以下の場合は上下各 1 箇所測定する。)	
		B	サイドローラ踏面の平面度 (s)	2 (3) mm/m	長さ 1 m の直定規からの変位を測定する。 () 内数値は軽構造部 (水圧荷重の影響や水密の必要がない部分) の許容差を示す。	
		3. 開閉装置	(5) 開閉装置寸法による。			

管 理 方 式		測 定 個 所 標 準 図	摘 要	
結果一覧表 によるもの	点検表 によるもの			
様式1-1		<p>サイドローラ戸溝内の場合</p>		
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				

(3) シェル構造ローラゲート寸法

工 種	分類	項 目	管理基準値 (mm)	測 定 基 準		
2 水門設備 ①河川・水路用水門設備 (製作)	1. 扉体	B 扉体の全幅 (a)	± 10	$a \leq 20m$	上下各1箇所を測定する。	
			± 16	$a > 20m$		
		A 扉体の全高 (b)	± 5	左右各1箇所を測定する。		
		A 扉体の厚さ (c ₁)	± 10 、 ± 3	左右、中央各1箇所を測定する。		
		A 水密ゴム受座から主ローラ踏面までの距離 (c ₂)	± 5 、 ± 3	各ローラ1箇所を測定する。		
		A 主ローラの支間距離 (d)	± 10	$a \leq 20m$	上下各1箇所を測定する。	
			± 16	$a > 20m$		
		A 主ローラ中心間距離 (e ₁)	± 5	左右各1箇所を測定する。		
		A 主ローラから扉体下端までの距離 (e ₂)	± 5	左右各1箇所を測定する。		
		A 主ローラ踏面の偏差 (f)	1	左右各1箇所を測定する。		
		B 主ローラ踏面からサイトローラまでの距離 (g)	± 5	上下左右各1箇所を測定する。		
		A 主ローラ中心からスプリングプレートまでの距離 (h)	± 5	上下左右各1箇所を測定する。		
		B 水密幅 (i)	± 10	$a \leq 20m$	水密ゴム受座の中心間距離を高さ2m毎に測定する。(2m以下の場合は上下各1箇所測定する。)	
			± 16	$a > 20m$		
		B 吊金物中心間距離 (j)	± 10	$a \leq 20m$	吊金物(シーブ)中心間距離を測定する。	
			± 16	$a > 20m$		
		B 吊金物中心とスプリングプレート間の距離 (k)	± 3	左右各1箇所を測定する。		
		B 底部の曲がり (l)	± 5	5m毎に測定する。		
		B スポイラ間隔 (m)	± 10	各々測定する。		
		B 休止フック間隔 (n)	± 10			
		B ダイヤフラム間隔 (o)	± 10	各1箇所を測定する。		
		A 水平桁、端縦桁の高さ (p)	B.H<0.5 ± 2 0.5≤B.H<1.0 ± 3 1.0≤B.H ± 4	数箇所抜き取りして測定する。		B:フランジ幅(m) H:腹板高(m)
		A 底面版の傾斜角度 (q)	$\pm 0.3^\circ$ 、 $\pm 0^\circ$	2箇所を測定する。		
A ゲートリップの長さ (r)	± 2	水密ゴム受座からの長さを2箇所測定する。				

管 理 方 式		測 定 個 所 標 準 図	摘 要	
結果一覧表 によるもの	点 検 表 によるもの			
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				

工 種	分類	項 目	管理基準値 (mm)	測 定 基 準	
2 水門設備 ①河川・水路用水門設備 (製作)	A	底面板と背面板交点の曲率半径 (s)	±10	2箇所を測定する。	
	A	頂板の傾斜角度 (t)	±0.3°、±0°	2箇所を測定する。	
	A	頂板とスピンドル交点の曲率半径 (u)	±10	2箇所を測定する。	
	A	円弧形状頂板の円弧半径 (v)	±10	3箇所を測定する。	
	A	起伏部側部と下段扉整流板の間隔 (D)	±3	左右各1箇所を測定する。(2段扉の場合)	
	A	起伏部吊金物中心間隔 (E)	±10	1箇所を測定する。(2段扉の場合)	
	A	起伏部扉体全幅 (F)	±10	a ≤ 20m	1箇所を測定する。(2段扉の場合)
			±16	a > 20m	
	A	起伏部扉体高さ (G)	±5	左右各1箇所を測定する。(2段扉の場合)	
	A	起伏部越流端の真直度 (H)	±5	2m毎に測定する。(2段扉の場合)	
	A	起伏部の下段扉側水密部の真直度 (I)	4	2m毎に測定する。(2段扉の場合)	
	A	起伏部ヒンジ軸の真直度 (J)	4	各ヒンジ軸毎に測定する。(2段扉の場合)	
	A	スライツ式2段扉の扉間水密部の平面度 (K)	3	(2段扉の場合)	

管 理 方 式		測 定 個 所 標 準 図	摘 要
結果一覧表 によるもの	点 検 表 によるもの		
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			

工 種	分類	項 目	管理基準値 (mm)	測 定 基 準			
2 水門設備 ①河川・水路用水門設備 (製作)	2. 戸当り	A	主ローレル桁高さ (a)	⊕5、⊖3	左右各1箇所を測定する。		
		A	主ローレル踏面板の幅 (aw)	B, H < 0.5 ⊕2 0.5 ≤ B, H < 1.0 ⊕3 1.0 ≤ B, H ⊕4	左右各1箇所を測定する。	B : フランジ幅(m) H : 腹板高(m)	
		A	主ローレル踏面中心間距離 (b)	⊕10	a ≤ 20m	上下各1箇所を測定する。	
				⊕16	a > 20m		
		B	サイドローレル間の距離 (c)	⊕10	a ≤ 20m	上下各1箇所を測定する。	
				⊕16	a > 20m		
		A	戸溝の幅 (d)	⊕3	上下各1箇所を測定する。		
		A	主ローレル踏面と水密板面との距離 (e)	⊕3、⊖5	上下各1箇所を測定する。		
		B	底部戸当りの中心と主ローレル踏面の距離 (f)	⊕3	左右各1箇所を測定する。		
		B	水圧側戸当り	全長(g ₁)	⊕10	左右各1箇所を測定する。	
		B		重構造部(g ₂)	⊕5	左右各1箇所を測定する。	
		B		軽構造部(g ₃)	⊕5	左右各1箇所を測定する。	
		B		取外し部(g ₄)	⊕5	左右各1箇所を測定する。	
		B	非水圧側戸当り	全長(h ₁)	⊕10	左右各1箇所を測定する。	
		B		重構造部(h ₂)	⊕5	左右各1箇所を測定する。	
		B		取外し部(h ₃)	⊕5	左右各1箇所を測定する。	
		A	主ローレル踏面板の厚さ (i ₁)	⊕5、⊖0	上下各1箇所を測定する。		
		B	主ローレルフランジ幅 (iw)	B, H < 0.5 ⊕2 0.5 ≤ B, H < 1.0 ⊕3 1.0 ≤ B, H ⊕4	上下各1箇所を測定する。	B : フランジ幅(m) H : 腹板高(m)	
		B	伸縮継手の位置 (j)	⊕10			
		A	底部戸当りの真直度 (k)	4			
B	底部戸当りの平面度 (l)	1mm/m					
A	水圧側主ローレル踏面板の真直度 (m)	2 (3)	2m毎に測定する。 () 内数値は軽構造部(水圧荷重の影響や水密の必要がない部分)の許容差を示す。				

管 理 方 式		測 定 個 所 標 準 図	摘 要	
結果一覧表 によるもの	点 検 表 によるもの			
様式1-1		<p>The diagram shows a vertical pipe with diameter d. It is divided into three main vertical sections: a top section of height h_3, a middle section of height h_1, and a bottom section of height h_2. The pipe has three different diameters: ϕ_1 for the top section, ϕ_2 for the middle section, and ϕ_3 for the bottom section. Inspection points are marked with letters m, n, o, p on the top section and s, t on the middle section. A cross-section at the bottom shows internal features with labels $a, a_w, i_r, i_w, j, k, \ell$. A horizontal dimension b is shown at the bottom, and a small detail f is shown on the left side of the pipe's base.</p>		
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				

工 種		分類	項 目	管理基準値 (mm)	測 定 基 準
2 水門設備 ①河川・水路用水門設備 (製作)		A	水圧側主ローレル踏面板の平面度 (n)	1 (2)mm/m	左右各 1 箇所を測定する。 () 内数値は軽構造部 (水圧荷重の影響や水密の必要がない部分) の許容差を示す。
		A	非水圧側主ローレル踏面板の真直度 (o)	2 (3)	2m毎に測定する。 () 内数値は軽構造部 (水圧荷重の影響や水密の必要がない部分) の許容差を示す。
		B	非水圧側主ローレル踏面板の平面度 (p)	2 (3)mm/m	左右各 1 箇所を測定する。 () 内数値は軽構造部 (水圧荷重の影響や水密の必要がない部分) の許容差を示す。
		A	水密面の真直度 (q)	2	2m毎に測定する。
		A	水密面の平面度 (r)	2mm/m	左右各 1 箇所を測定する。
		B	サイドローレル踏面板の真直度 (s)	6	2m毎に測定する。
		B	サイドローレル踏面板の平面度 (t)	2 (3)mm/m	左右各 1 箇所を測定する。 () 内数値は軽構造部 (水圧荷重の影響や水密の必要がない部分) の許容差を示す。
		3. 開閉装置	(5) 開閉装置寸法による。		

管 理 方 式		測 定 個 所 標 準 図	摘 要
結果一覧表 によるもの	点 検 表 によるもの		
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			

(4) 起伏ゲート寸法

工 種	分類	項 目	管理基準値 (mm)	測 定 基 準	
2 水門設備 ① 河川・水路用水門設備 (製作)	1. 扉体	B	扉体幅 (a ₁)	±10	「共通」 上下各1箇所を測定する。
		A	側部水密ゴム 間隔 (a ₂)	±6	「共通」 上下各1箇所を測定する。
		A	扉体高さ (b)	±5	「共通」 左右各1箇所を測定する。
		A	扉体側部の幅 (厚み) (c)	B, H < 0.5 ±2 0.5 ≤ B, H < 1.0 ±3 1.0 ≤ B, H ±4	「共通」 左右各2箇所を測定 する。 B : フランジ幅(m) H : 腹板高(m)
		B	ローラ間隔 (d)	±6	「背面支持方式」
		B	ヒンジ軸間隔 (e)	±3	「背面支持方式」
		B	ヒンジ軸・ローラ軸 間隔 (f)	±2	「背面支持方式」
		A	トルク軸径 (g)	JIS	「軸ねじり方式」
		A	ヒンジ軸真直 度 (h)	4	「背面支持方式」
		A	ローラ軸真直 度 (i)	4	「背面支持方式」
		B	底部ゴム当 たり真直度 (j)	8	「共通」 2m毎に測定する。(2m以下の場合は 左右各1箇所測定する。)
		B	越流部真直 度 (k)	10	「共通」 2m毎に測定する。(2m以下の場合は 左右各1箇所測定する。)
		A	駆動軸真直 度 (l)	2	「軸ねじり方式」
		B	トルク軸真直 度 (m)	8	「軸ねじり方式」 2m毎に測定する。(2m以下 の場合は左右各1箇所測定する。)
		A	駆動軸全長 (n)	±10	「軸ねじり方式」

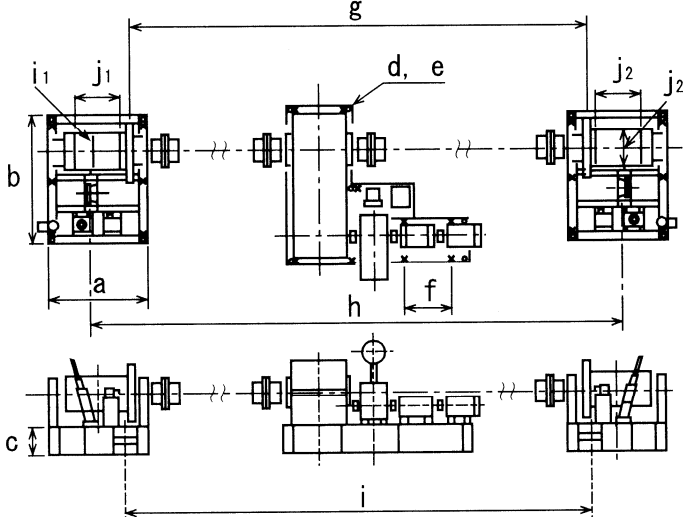
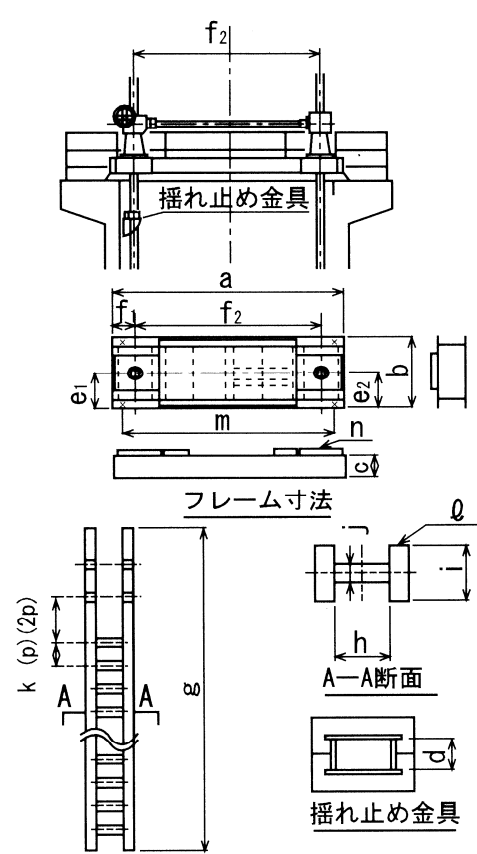
管 理 方 式		測 定 個 所 標 準 図	摘 要
結果一覧表 によるもの	点 検 表 によるもの		
様式1-1		<p>背面より見る</p> <p>背面支持方式</p> <p>背面より見る</p> <p>軸ねじり方式</p>	
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			

工 種	分類	項 目	管理基準値 (mm)	測 定 基 準	
2 水門設備 ①河川・水路用水門設備 (製作)	2. 戸当り	B	側部戸当り半径 (a)	±5	「共通」 左右岸各 2箇所を測定する。
		B	側部戸当り弧長 (b)	±10	「共通」 左右岸測定する。
		A	側部戸当り平面度 (c)	2mm/m	「共通」
		B	底部戸当り全長 (d)	±5	「共通」
		B	底部戸当り真直度 (e)	4	「共通」 2m毎に測定する。(2m以下の場合は左右各 1箇所測定する。)
	3. 開閉装置	A	油圧シリンダ全長 (a)	JIS	「背面支持方式」
		A	設置角度 (b)	2%	「背面支持方式」
		B	端部レバー取付位置 (c)	±2	「軸ねじり方式」

管 理 方 式		測 定 個 所 標 準 図	摘 要
結果一覧表 によるもの	点 検 表 によるもの		
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1		<p style="text-align: center;">背面支持方式 軸ねじり方式</p>	
様式1-1			
様式1-1			

(5) 開閉装置寸法

工 種	分類	項 目	管理基準値 (mm)	測 定 基 準			
2 水門設備 ①河川・水路用水門設備 (製作)	1. リヤロープウインチ式	A	フレーム長 (a)	±5	左右各1箇所を測定する。		
		A	フレーム幅 (b)	±5	左右各1箇所を測定する。		
		A	フレーム高さ (c)	B.H<0.5 ±2 0.5≤B.H<1.0 ±3 1.0≤B.H ±4	四隅を測定する。	B : フランジ幅(m) H : 腹板高(m)	
		B	フレーム水平度 (d)	±1	基準ゲージ面を測定する。		
		B	フレーム高低差 (e)	±1	基準ゲージ面を測定する。		
		B	フレーム基礎ボルト穴間隔 (f)	±3	据付基準点からの距離を測定する。		
		A	ドラムギアの中心距離 (g)	±6			
		A	シーブ中心間距離 (h)	±6			
		B	休止装置軸中心間距離 (i)	±6			
		A	左右ドラムの直径差 (j)	0.5	ドラムの直径の差を測定する。(j ₁ —j ₂)		
		A	ドラムの幅 (k)	±5			
		A	歯車の歯幅	JIS B0405 中級			
		2. ラック式	B	フレーム長 (a)	±5	左右各1箇所を測定する。	
	B		フレーム幅 (b)	±5	左右各1箇所を測定する。		
	B		フレーム桁高 (c)	B.H<0.5 ±2 0.5≤B.H<1.0 ±3 1.0≤B.H ±4	四隅各1箇所を測定する。	B : フランジ幅(m) H : 腹板高(m)	
	B		振れ止め金具内寸法 (d)	±2、±0	1箇所を測定する。		
	A		吊り芯間隔 (中心線のずれ) (e)	±5	上下流方向を測定する。		
	A		吊り心間隔 (f)	±5	左右岸方向を測定する。		
	A		ラック全長 (g)	±1ピッチ、±0	左右各1箇所を測定する。		
	A		ラック幅 (h)	±2	両端、中央を測定する。		
	A		ラック高さ (i)	±2 ±3	25 ≤ i < 100 100 ≤ i < 150	両端、中央を測定する。	
	A		ピン径 (j)	±0.5	両端、中央を測定する。(ピッチラックの場合)		
	A		ラックピッチ (k)	±0.5	両端、中央を測定する。		
	A		ラック真直度 (l)	2mm/m	長さ1mにつき		
	B	基礎ボルト穴間隔 (m)	±3	据付基準線からの距離を測定する。			
A	水平度 (n)	±2	基準ゲージ面を測定する。				

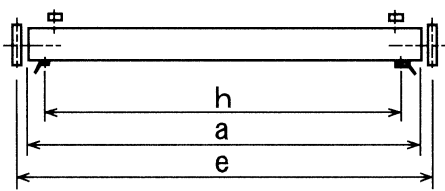
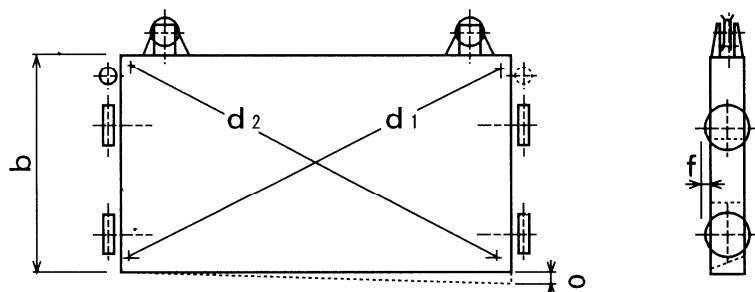
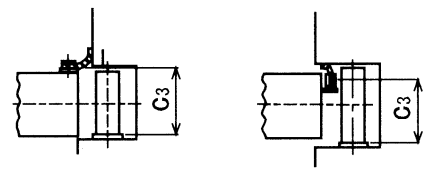
管 理 方 式		測 定 個 所 標 準 図	摘 要	
結果一覧表 によるもの	点 検 表 によるもの			
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				

工 種		分類	項 目	管理基準値 (mm)	測 定 基 準
2 水門設備 ① 河川・水路用水門設備 (製作)	3. スピンドル式	A	スピンドル長 (a)	± 10	
		A	スピンドル有効 ねじ長 (b)	± 10 、 $\ominus 0$	
		A	スピンドル径 (c)	JIS	
		A	スピンドルねじ ピッチ (d)	JIS	
		A	スピンドル真直 度 (e)	0.5mm/m	長さ1mにつき
		A	スタンド高 (f)	± 1	

管 理 方 式		測 定 個 所 標 準 図	摘 要
結果一覧表 によるもの	点 検 表 によるもの		
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			

(1) 3方水密ローラゲート寸法

工 種	分類	項 目	管理基準値 (mm)	測 定 基 準	
2 水門設備 ①河川・水路用水門設備 (据付)	1. 扉体	B	扉体の全幅 (a)	±10	上下各1箇所を測定する。
		A	扉体の全高 (b)	±10	左右各1箇所を測定する。
		A	水密ゴム受座 面から主ローラ 踏面までの距 離 (c ₃)	±5	「L形ゴム横付タイプ」 左右各2箇所を測定する。
				±5、±3	「L形ゴム戸溝内タイプ」 左右各3箇所 (上・中・下) を測定する。
		A	基準点对角長 の差 (d)	10	基準点間の距離の差を測定する。 ($d = d_1 - d_2 $)
		A	主ローラの支間 (e)	±10	上下各1箇所を測定する。
		A	主ローラ踏面の 偏差 (f)	1	左右各1箇所を測定する。
		B	水密幅 (h)	±10、±6	「L形ゴム横付タイプ」 水密ゴム受座の中心間距離を長さ2m毎に測定す る。(2m以下の場合は上下各1箇所測定する。)
				±10	「L形ゴム戸溝内タイプ」 水密ゴム受座の中心間距離を長さ2m毎に測定す る。(2m以下の場合は上下各1箇所測定する。)
		A	扉体の傾き (o)	±5	全閉前の左右岸・中央を測定する。(水流直角方 向)

管 理 方 式		測 定 個 所 標 準 図	摘 要
結果一覧表 によるもの	点 検 表 によるもの		
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1		 <p>L形ゴム横付 L形ゴム戸溝内</p>	

工 種	分類	項 目	管理基準値 (mm)	測 定 基 準
2 水門設備 ①河川・水路用水門設備 (据付)	2. 戸当り	A 純径間 (a)	$\oplus 6、\ominus 10$	「L形ゴム横付タイプ」 上下各1箇所を測定する。
			$\oplus 10$	「L形ゴム戸溝内タイプ」 上下各1箇所を測定する。
		A 主ロー踏面中心間距離 (b)	$\oplus 10$	上下各1箇所を測定する。
		B 主ローとフロントロー踏面間距離 (d)	$\oplus 5$	上下各1箇所を測定する。
		A 基準点对角長の差 (i)	10	基準点間の距離の差を測定する。 ($i = i_1 - i_2 $)
		A 水密面の水平度 (k)	2	基準線からの変位を測定する。
		A 主ロー踏面板表面の鉛直度 (l)	2 (4)	長さ2m毎に測定する。(2m以下の場合は上下各1箇所測定する。) ()内数値は軽構造部(水圧荷重の影響や水密の必要がない部分)の許容差を示す。
		A 主ロー踏面板表面の平面度 (m)	1 (2)mm/m	長さ1mの直定規からの変位を測定する。 ()内数値は軽構造部(水圧荷重の影響や水密の必要がない部分)の許容差を示す。
		A 水密面の鉛直度 (n)	2	基準線からの変位を測定する。
		A 水密面の平面度 (o)	2mm/m	長さ2m毎に測定する。(2m以下の場合は上下各1箇所測定する。)
		B サイトロー踏面の鉛直度 (p)	6	長さ2m毎に測定する。(2m以下の場合は上下各1箇所測定する。)
		B サイトロー踏面の平面度 (q)	2 (3)mm/m	長さ1mの直定規からの変位を測定する。 ()内数値は軽構造部(水圧荷重の影響や水密の必要がない部分)の許容差を示す。
		B 据付基準線から主ロー踏面板までの距離 (r)	$\oplus 5$	左右各1箇所を測定する。
		B 底部戸当りの標高 (s)	$\oplus 5$	中央部を測定する。
		3. 開閉装置		(5)開閉装置寸法による。

管 理 方 式		測 定 個 所 標 準 図	摘 要	
結果一覧表 によるもの	点 検 表 によるもの			
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				

(2) 4方水密ローラゲート寸法

工 種	分類	項 目	管理基準値 (mm)	測 定 基 準	
2 水門設備 ①河川・水路用水門設備 (据付)	1. 扉体	B	扉体の全幅 (a)	± 10	上下各1箇所を測定する。
		A	扉体の全高 (b)	± 10	左右各1箇所を測定する。
		A	水密ゴム受座 面から主ローラ 踏面までの距 離 (c ₃)	± 0 、 ± 2	左右各2箇所を測定する。
		A	基準点对角長 の差 (d)	10	基準点間の距離の差を測定する。 ($d = d_1 - d_2 $)
		A	主ローラの支間 (e)	± 10	上下各1箇所を測定する。
		A	主ローラ踏面の 偏差 (f)	1	左右各1箇所を測定する。
		B	水密幅 (h)	± 10	水密ゴム受座の中心間距離を長さ2m毎に測定する。 (2m以下の場合は上下各1箇所測定する。)
		B	側部水密高さ (m)	± 5	水密ゴム受座の中心間距離を左右各2箇所を測定する。
		A	扉体の平面度 (o)	小形 3 中形 5 大形 7	dの対角基準点4箇所とその交点の計5箇所を測定する。(現場接合がある場合) 小形水門：扉体面積10㎡未満 中形水門：扉体面積10㎡以上50㎡未満 大形水門：扉体面積50㎡以上
		A	扉体の傾き (p)	± 5	全閉前の左右岸・中央を測定する。(水流直角方向)

管 理 方 式		測 定 個 所 標 準 図	摘 要
結果一覧表 によるもの	点 検 表 によるもの		
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			

工 種	分類	項 目	管理基準値 (mm)	測 定 基 準	
2 水門設備 ①河川・水路用水門設備 (据付)	2. 戸当り	A	純径間 (a)	± 10	上下各 1 箇所を測定する。
		A	主ローラ踏面中心間距離 (b)	± 10	上下各 1 箇所を測定する。
		A	呑口高さ (g)	± 5	左右岸及び中央の各 1 箇所を測定する。
		A	基準点对角長の差 (k)	10	基準点間の距離の差を測定する。 ($k = k_1 - k_2 $)
		A	水密面の水平度 (m)	2	基準線からの変位を測定する。
		A	主ローラ踏面板表面の鉛直度 (n)	2 (4)	長さ 2 m 毎に測定する。(2 m 以下の場合は上下各 1 箇所測定する。) () 内数値は軽構造部 (水圧荷重の影響や水密の必要がない部分) の許容差を示す。
		A	主ローラ踏面板表面の平面度 (o)	1 (2) mm/m	長さ 1 m の直定規からの変位を測定する。 () 内数値は軽構造部 (水圧荷重の影響や水密の必要がない部分) の許容差を示す。
		A	水密面の鉛直度 (p)	2	基準線からの変位を測定する。
		A	水密面の平面度 (q)	1 mm/m	長さ 2 m 毎に測定する。(2 m 以下の場合は上下各 1 箇所測定する。)
		B	サイトローラ踏面の鉛直度 (r)	6	長さ 2 m 毎に測定する。(2 m 以下の場合は上下各 1 箇所測定する。)
		B	サイトローラ踏面の平面度 (s)	2 (3) mm/m	長さ 1 m の直定規からの変位を測定する。 () 内数値は軽構造部 (水圧荷重の影響や水密の必要がない部分) の許容差を示す。
		B	底部戸当りの標高 (t)	± 5	中央部を測定する。
		B	据付基準線から主ローラ踏面板までの距離 (u)	± 5	左右各 1 箇所を測定する。
			3. 開閉装置	(5) 開閉装置寸法による。	

管 理 方 式		測 定 個 所 標 準 図	摘 要	
結果一覧表 によるもの	点 検 表 によるもの			
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				

(3) シェル構造ローラゲート寸法

工 種	分類	項 目	管理基準値 (mm)	測 定 基 準		
2 水門設備 ①河川・水路用水門設備 (据付)	1. 扉体	B 扉体の全幅 (a)	± 10	$a \leq 20m$	上下各1箇所を測定する。	
			± 16	$a > 20m$		
		A 扉体の全高 (b)	± 5	左右各1箇所を測定する。		
		A 水密ゴム受座 から主ローラ踏 面までの距離 (c ₂)	± 5 、 ± 3	各ローラ1箇所を測定する。		
		A 主ローラの支間 距離 (d)	± 10	$a \leq 20m$	上下各1箇所を測定する。	
			± 16	$a > 20m$		
		A 主ローラ踏面の 偏差 (f)	1	左右各1箇所を測定する。		
		B 水密幅 (i)	± 10	$a \leq 20m$	水密ゴム受座の中心間距離を高さ 2m毎に測定する。(2m以下の場 合は上下各1箇所測定する。)	
			± 16	$a > 20m$		
		B 吊金物中心間 距離 (j)	± 10	$a \leq 20m$	吊金物(シーブ)中心間距離を測定 する。	
			± 16	$a > 20m$		
		B 底部の曲がり (l)	± 5	5m毎に測定する。		
		A 扉体の傾き (p)	± 5	全閉前の左右岸・中央を測定する。(水流直角方 向)		
		B 温度差・扉体 自重による鉛 直方向のたわ み (x)	—	各々測定する。		
		A 起伏部側部と 下段扉整流板 の間隔 (D)	± 3	左右各1箇所を測定する。(2段扉の場合)		
		A 起伏扉吊金物 中心間隔(E)	± 10	1箇所を測定する。(2段扉の場合)		
		A 起伏部扉体全 幅 (F)	± 10	$a \leq 20m$	1箇所を測定する。(2段扉の場 合)	
			± 16	$a > 20m$		
		A 起伏部越流端 の真直度(H)	± 10	2m毎に測定する。(2段扉の場合)		
		A 起伏部の下段 扉側水密部の 真直度 (I)	4	2m毎に測定する。(2段扉の場合)		
A 起伏部ヒンジ軸 の真直度(J)	3	各ヒンジ軸毎に測定する。(2段扉の場合)				
A スライド式2段 扉の扉間水密 部の平面度 (k)	3	(2段扉の場合)				

管 理 方 式		測 定 個 所 標 準 図	摘 要	
結果一覧表 によるもの	点 検 表 によるもの			
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-2				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				

工 種	分類	項 目	管理基準値 (mm)	測 定 基 準			
2 水門設備 ①河川・水路用水門設備 (据付)	2. 戸当り	A 主ローレル踏面 中心間距離 (b)	± 10	$a \leq 20\text{m}$	上下各1箇所を測定する。		
			± 16	$a > 20\text{m}$			
		B サイドローレル間 の距離 (c)	± 10	$a \leq 20\text{m}$	上下各1箇所を測定する。		
			± 16	$a > 20\text{m}$			
		A 戸溝の幅 (d)	± 3	上下各1箇所を測定する。			
		A 主ローレル踏面 と水密板面と の距離 (e)	± 3 、 ± 5	上下各1箇所を測定する。			
		B 底部戸当りの 中心と主ローレ ル踏面の距離 (f)	± 3	左右各1箇所を測定する。			
		B 水 圧 側 戸 当 り	全長(g ₁)	± 10	左右各1箇所を測定する。		
		B	重構造部 (g ₂)	± 5	左右各1箇所を測定する。		
		B	軽構造部 (g ₃)	± 5	左右各1箇所を測定する。		
		B	取外し部 (g ₄)	± 5	左右各1箇所を測定する。		
		B 非 水 圧 側 戸 当 り	全長 (h ₁)	± 10	左右各1箇所を測定する。		
		B	重構造部 (h ₂)	± 5	左右各1箇所を測定する。		
		B	取外し部 (h ₃)	± 5	左右各1箇所を測定する。		
		B 伸縮継手の位 置 (j)	± 10				
		A 底部戸当りの 真直度 (k)	4				
		B 底部戸当りの 平面度 (l)	1mm/m				
		A 水圧側主ローレ ル踏面板の真 直度 (m)	2 (3)	2m毎に測定する。 ()内数値は軽構造部(水圧荷重の影響や水密 の必要がない部分)の許容差を示す。			
		A 水圧側主ローレ ル踏面板の平 面度 (n)	1 (2)mm/m	左右各1箇所を測定する。 ()内数値は軽構造部(水圧荷重の影響や水密 の必要がない部分)の許容差を示す。			
		A 非水圧側主ロー レル踏面板の 真直度 (o)	2 (3)	2m毎に測定する。 ()内数値は軽構造部(水圧荷重の影響や水密 の必要がない部分)の許容差を示す。			
B 非水圧側主ロー レル踏面板の 平面度 (p)	2 (3)mm/m	左右各1箇所を測定する。 ()内数値は軽構造部(水圧荷重の影響や水密 の必要がない部分)の許容差を示す。					
A 水密面の真直 度 (q)	2	2m毎に測定する。					

管 理 方 式		測 定 個 所 標 準 図	摘 要	
結果一覧表 によるもの	点 検 表 によるもの			
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				

工 種		分類	項 目	管理基準値 (mm)	測 定 基 準
2 水門設備 ①河川・水路用水門設備 (据付)	3. 開閉装置	A	水密面の平面度 (r)	1mm/m	左右各 1箇所を測定する。
		B	サイドローレル踏面板の真直度 (s)	6	2m毎に測定する。
		B	サイドローレル踏面板の平面度 (t)	2(3)mm/m	左右各 1箇所を測定する。 () 内数値は軽構造部 (水圧荷重の影響や水密の必要がない部分) の許容差を示す。
		B	底部戸当りの標高 (u)	±5	中央部を測定する。
		B	据付基準線から主ローラ踏面板までの距離 (v)	±5	左右各 1箇所を測定する。
			(5)開閉装置寸法による。		

管 理 方 式		測 定 個 所 標 準 図	摘 要
結果一覧表 によるもの	点 検 表 によるもの		
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			

(4) 起伏ゲート寸法

工 種	分類	項 目	管理基準値 (mm)	測 定 基 準	
2 水門設備 ①河川・水路用水門設備 (据付)	1. 扉体	B	扉体幅 (a ₁)	±10	「共通」 上下各2箇所を測定する。
		A	側部水密ゴム 間隔 (a ₂)	±6	「共通」 上下各2箇所を測定する。
		B	ローラ間隔 (d)	±6	「背面支持方式」
		B	ヒンジ軸間隔 (e)	±3	「共通」
		A	ローラ軸真直 度 (i)	4	「背面支持方式」 ローラ個数3個以上の場合測定する。
		A	起立時天端標 高 (o)	±5	「共通」 長さ2m毎に測定する。(2m以下の場合には左右 各1箇所測定する。)
		A	倒伏時天端標 高 (p)	±5	「共通」 長さ2m毎に測定する。(2m以下の場合には左右 各1箇所測定する。)

管 理 方 式		測 定 個 所 標 準 図	摘 要
結果一覧表 によるもの	点 検 表 によるもの		
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			

工 種	分類	項 目	管理基準値 (mm)	測 定 基 準	
2 水門設備 ①河川・水路用水門設備 (据付)	2. 戸当り	A	側部戸当り平面度 (c)	2mm/m	左右岸を測定する。
		B	底部戸当り全長 (d)	±5	
		B	底部戸当り真直度 (e)	1 2	長さ2m毎に測定する。(2m以下の場合は左右各1箇所測定する。)
		A	側部戸当り鉛直度 (f)	4	
		A	純径間 (g)	±6	
		B	底部戸当り標高 (h)	±5	長さ2m毎に測定する。(2m以下の場合は左右各1箇所測定する。)
		B	側部戸当り据付距離 (j)	±2	左右岸を測定する。
	3. 固定部	A	ヒンジ軸受通り (a)	±2	各軸受を測定する。
		A	ヒンジ軸受標高 (b)	±2	各軸受を測定する。
		A	ヒンジ軸受間隔 (c)	±2	各軸受間隔を測定する。

管 理 方 式		測 定 個 所 標 準 図	摘 要
結果一覧表 によるもの	点 検 表 によるもの		
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			

工 種	分類	項 目	管理基準値 (mm)	測 定 基 準	
2 水門設備 ①河川・水路用水門設備 (据付)	4. 開閉装置	A	油圧シリンダ 直角度 (a)	⊕2	「背面支持方式」 ゲート軸との直角度を測定する。
		A	設置角度 (b)	2%	「背面支持方式」
		B	ローラ・シリ ンダ位置関係 (c)	⊕2	「背面支持方式」
		A	油圧シリンダ 間隔 (d)	⊕4	「背面支持方式」
		B	油圧シリンダ 設置標高 (e)	⊕2	「軸ねじり方式」

管 理 方 式		測 定 個 所 標 準 図	摘 要
結果一覧表 によるもの	点 検 表 によるもの		
様式1-1		<p>油圧シリンダ</p> <p>扉体</p> <p>横ねじり方式</p> <p>ローラ</p> <p>A B</p> <p>a1 a2</p> <p>a3 a4</p> <p>C1 油圧シリンダ</p> <p>D</p> <p>d</p> <p>背面支持方式 (背面より見る)</p> <p>扉体</p> <p>水流方向</p> <p>油圧シリンダ</p> <p>b</p> <p>背面支持方式</p>	
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			

(5) 開閉装置寸法

工 種	分類	項 目	管理基準値 (mm)	測 定 基 準	
2 水門設備 ①河川・水路用水門設備 (据付)	1. ワイヤロープウインチ式	B	開閉装置フレームの水平度 (d)	±1	四隅の基準ゲージ面を測定する。
		B	伝動軸で連結される開閉装置フレームの高低差 (e)	±1	四隅の基準ゲージ面を測定する。
		B	ドラムギヤ中心間距離 (g)	±6	
		B	シーブ中心間距離 (h)	±6	
		B	据付基準線からの上下流方向のずれ (l)	±1	ドラム中心と据付基準線の距離を測定する。
		B	据付基準点から左右方向のずれ (m)	±1	ドラムギヤ中心と据付基準線の距離を測定する。
		B	据付基準点から標高のずれ (n)	±1	ドラム中心と据付基準線の高さを測定する。
	2. ラック式	A	吊 心 間 隔 (f ₂)	±3	吊心間隔を測定する。
		A	開閉装置フレームの水平度 (n)	±2	四隅の基準ゲージ面を測定する。
		A	据付基準から上下流方向のずれ (p)	±2	据付基準線から吊心までの距離を測定する。
		A	据付基準から左右方向のずれ (q)	±2	据付基準線から吊心までの距離を測定する。

管 理 方 式		測 定 個 所 標 準 図	摘 要
結果一覧表 によるもの	点 検 表 によるもの		
様式1-1			
様式1-1		<p>据付基準点</p> <p>据付基準点 (標高)</p>	
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1		<p>据付基準線</p> <p>吊心間隔</p> <p>吊心</p> <p>吊心</p> <p>据付基準線</p>	
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			

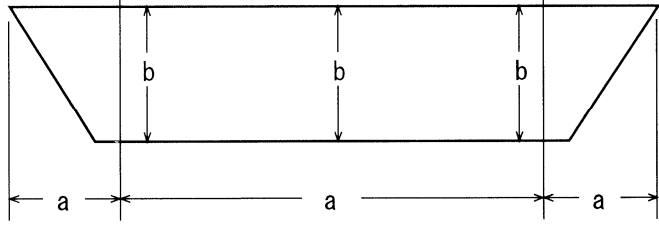
工 種	分類	項 目	管理基準値 (mm)	測 定 基 準	
2 水門設備 ①河川・水路用水門設備 (据付)	3. ストール式	B	機械台長 (a)	±20	
		B	機械台幅 (b)	±20	
		B	機械台厚さ (c)	⊕15、⊖13	部材厚 30cm未満 " 30cm以上
				⊕20、⊖15	
		B	ストール高 (d)	±1	

管 理 方 式		測 定 個 所 標 準 図	摘 要
結果一覧表 によるもの	点 検 表 によるもの		
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			

2. 水門設備

②ゴム引布製起伏ゲート

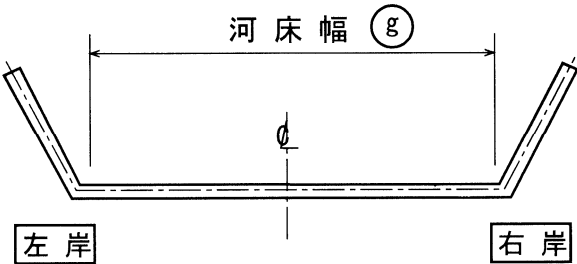
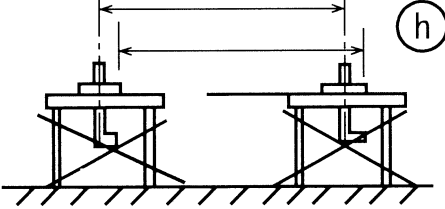
工 種	分類	項 目	管理基準値 (mm)	測 定 基 準			
② 水門設備 ② ゴム引布製起伏ゲート (製作)	1. 専用固定ボルト	B	全長	⊕10、⊖5			
		B	ボルト長	⊕5			
	2. 受け金具	B	全長	⊕10	L < 10m	河床幅方向について1箇所測定する。 L：受け金具全長 (m)	
				⊕15	10m ≤ L < 30m		
				⊕20	30m ≤ L		
	B	幅・厚	⊕2	左右中央各1箇所測定する。			
	3. 固定金具	B	全長	⊕3	ロットより3本以上抜き取り測定する。		
		B	幅・厚	⊕2			
	4. ゴム袋体	A	長さ (a)	⊕10	長さの範囲区分	0～ 500 mm	上下各1箇所測定する。
				⊕30		501～ 5,000 mm	
				⊕50		5,001～10,000 mm	
				⊕70		10,001～30,000 mm	
				⊕100		30,001～50,000 mm	
				⊕150		50,001 mm以上	
		A	幅 (b)	⊕10	幅の範囲区分	0～ 500 mm	左右中央各1箇所測定する。
⊕30				501～ 5,000 mm			
⊕50				5,001～10,000 mm			
⊕70				10,001～30,000 mm			
⊕100				30,001～50,000 mm			
⊕150				50,001 mm以上			
A	厚さ (c)	⊕10%、⊖5%	左右中央各1箇所測定する。なお、標準部のみとし、接合部等は除くものとする。				

管 理 方 式		測 定 個 所 標 準 図	摘 要
結果一覧表 によるもの	点 検 表 によるもの		
様式1-1		 <p>The diagram shows a trapezoidal shape representing a rubber specimen. It has a top horizontal edge and a bottom horizontal edge. The top edge is longer than the bottom edge. The two non-parallel sides are slanted. Three vertical dimension lines labeled 'b' indicate the height from the bottom edge to the top edge at three different points. Three horizontal dimension lines labeled 'a' indicate the distance from the left and right edges to the first and third vertical lines, respectively.</p>	ゴム本体展張時の寸法を測定する。
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			

工 種	分類	項 目	管理基準値 (mm)	測 定 基 準		
2 水門設備 ②ゴム引布製起伏ゲート (据付)	1. 取付金具	A	基準高 (a)	±5	受け金具の河床据付基準高について左右岸中央各1箇所測定する。	
		A	据付 寸法	±10	受け金具の法部天端据付寸法について左右岸各1箇所測定する。	
		A				法幅 (b)
		A				法長 (c)
		A	法高 (d)			
B	突出し長さ (e)	現場調整可能 ±2 現場調整不可能 ±5	専用固定ボルトの突出し長さについて10本につき1箇所の割合で測定する。 上記未満は2箇所測定する。			
B	取付ピッチ (f)	±3	専用固定ボルトの取付ピッチについて10箇所につき1箇所の割合で測定する。 上記未満は2箇所測定する。			

管 理 方 式		測 定 個 所 標 準 図	摘 要
結果一覧表 によるもの	点 検 表 によるもの		
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			

工 種	分類	項 目	管理基準値 (mm)	測 定 基 準	
2 水門設備 ②ゴム引布製起伏ゲート(据付)	B	河床幅方向据付 (g)	⊕10	$g < 10\text{m}$	受け金具の河床幅方向据付について1箇所測定する。 g : 河床幅 (m)
			⊕15	$10\text{m} \leq g < 30\text{m}$	
			⊕20	$30\text{m} \leq g$	
	B	上下流間隔 (h)	⊕5	専用固定ボルト又は受け金具の上下流間隔について5本につき1箇所の割合で測定する。 上記未満は左右岸中央各1箇所測定する。 ※2列固定式の場合	
	2. 配管	B	給排気管の据付位置及びレベル	⊕10	据付位置及びレベル精度について施工延長概ね10mにつき1箇所の割合で測定する。 上記未満は2箇所測定する。
		B	内圧検知管の据付位置及びレベル	⊕10	
		B	導水管の据付位置及びレベル	⊕10	
		B	排水用配管の据付位置及びレベル	⊕10	
		B	気密性		
	3. ゴム袋体	B	締付トルク	挟込み式 ⊕30%、⊖10%	専用固定ボルトの締付トルクについて10本につき1箇所の割合で測定する。 上記未満は2箇所測定する。
巻込み式 ⊕10%、⊖0%					
B	堰高のレベル	堰高の10%以下	河床幅20m未満は3箇所、20m以上は5箇所測定する。		

管 理 方 式		測 定 個 所 標 準 図	摘 要
結果一覧表 によるもの	点 検 表 によるもの		
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
	様式1-3		
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			

工 種	分類	項 目	管理基準値 (mm)	測 定 基 準	
2 水門設備 ②ゴム引布製起伏ゲート (据付)	4. 操作機器	B	操作盤の位置		①承諾図書に示す所定の位置に据付けられていること。 ②据付水平度が適切であること。 ③倒壊又は移動に対して適切な方法で固定されていること。 据付状態を目視又はスケール等により確認する。
		B	ブロワの位置		
		B	制御盤の位置		
		B	立上り配管の位置		
	B	地下ピット機器	導水管の位置及びレベル	レベル ⊕20、⊖0	同上
			フロート（又はバケット）の据付レベル	⊕20	承諾図書に示された位置について1箇所測定する。

管 理 方 式		測 定 個 所 標 準 図	摘 要
結果一覧表 によるもの	点 検 表 によるもの		
	様式1-3		
	様式1-3		
	様式1-3		
	様式1-3		
	様式1-3		
	様式1-3		
様式1-1			

2. 水門設備

③ダム用水門設備

(1) クレストラジアルゲート寸法

工 種	分類	項 目	管理基準値 (mm)	測 定 基 準			
2 水門設備 ③ダム用水門設備 (製作)	1. 扉体	A	トラニオンピン水平度 (a ₁)	±1	トラニオンピン中心の傾き及び左右の高低差を測定する。		
		A	トラニオンピンの通り (a ₂)	±1	トラニオンピン中心の上下流方向へのずれを測定する。		
		B	トラニオンピン間の水平距離(b)	±2	トラニオンハブの外周間隔を測定する。		
		A	扉体半径 (c)	±8	左右にてスキムプレート後面からピン穴中心までの距離を測定する。		
		A	扉体半径左右の差	5	c _L - c _R		
		B	扉体幅 (d)	±6	上下各 1 箇所を測定する。		
		A	扉高 (e)	±10	左右について c、f 及びピン高さから算出する。		
		A	扉体の弧長 (f)	±10	左右についてスキムプレート外面を測定する。		
		A	底部と側部の直角度 (g)	±3	扉体底部の水平面を基準に扉体側面の出入りを測定する。		
		A	主桁高さ (h ₁)	B.H<0.5 ±2 0.5≤B.H<1.0 ±3 1.0≤B.H ±4	各桁 1 本につき 2 箇所を測定する。	B : フランジ幅(m) H : 腹板高(m)	
		A	主桁間隔 (h ₂)	±10	左右各 1 箇所又は上下各 1 箇所を測定する。		
		A	対角長の差 (i)	5	基準点間の距離の差を上、下脚について測定する。(i = i ₁ - i ₂)		
		B	シブ中心間隔 (j)	±10	左右各 1 箇所を測定する。		
		B	サイドローラ間隔 (k)	±10	左右サイドローラ踏面間隔を測定する。		
		B	水密ゴム間隔 (l)	±10、±0	弧長 2m ごとに水密ゴム押えボルト穴中心距離を測定する。		
		A	脚柱取付部間隔 (m)	±10	上下各 1 箇所を測定する。		
		A	トラニオンボスの幅 (q)	±1、±0	左右各 1 箇所を測定する。		
		B	脚柱取付部から端までの距離 (n)	±3 (L、R)	上下について測定する。		
		A	脚柱の曲がり (o)	±10 ±c/1000	扉体半径 c が 10,000 mm 以上の場合 扉体半径 c が 10,000 mm 未満の場合		
		B	底部の曲がり (p)	±3			

管 理 方 式		測 定 個 所 標 準 図	摘 要	
結果一覧表 によるもの	点 検 表 によるもの			
様式1-1		<p>The drawing consists of three main parts: <ul style="list-style-type: none"> Top View: A rectangular frame with dimensions g (width), d (length), j (inner length), and k (outer length). It includes a horizontal line labeled "水平線" and points p and a_1. Side View: A truss structure with dimensions e, f, h_1, h_2, c, and o. Bottom View: A truss structure with dimensions i, n_R, m, n_L, i_1, i_2, a_2, and b. Detail View: A cross-section of a truss joint labeled "トラニオンハブ" (truss hub) with a "ピアノ線" (piano wire) and a "測定器具" (measuring tool) of width q. Point a_1 is also indicated. </p>		
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				
様式1-1				

工 種	分類	項 目	管理基準値 (mm)	測 定 基 準		
2 水門設備 ③ダム用水門設備 (製作)	2. 戸当り	B	側部戸当りの 弧長 (a)	$\oplus 5$	左右各 1 箇所を測定する。	
		A	底部戸当りの 長さ (b)	$\oplus 5$	1 箇所を測定する。	
		B	底部戸当り伸 縮継手の位置 (c)	$\oplus 5$	1 箇所を測定する。	
		B	側部戸当り半 径 (d)	$\oplus 5$	弧長 2m ごとに測定する。	
		A	水密面の平面 度 (e)	2mm/m	長さ 1m につき	
		A	水密面の鉛直 度 (f)	3		
	3. アンカレ ージ	A	トランカ ^ダ 全 長 (a)	$\oplus 10$ 、 $\ominus 5$	1 箇所を測定する。	
		A	トランカ ^ダ 高 さ (b)	B.H<0.5 $\oplus 2$ 0.5 \leq B.H<1.0 $\oplus 3$ 1.0 \leq B.H $\oplus 4$	1 箇所を測定する。	B : フランジ幅(m) H : 腹板高(m)
		A	トランカ ^ダ 幅 (c)	B.H<0.5 $\oplus 2$ 0.5 \leq B.H<1.0 $\oplus 3$ 1.0 \leq B.H $\oplus 4$	1 箇所を測定する。	B : フランジ幅(m) H : 腹板高(m)
		A	テンションビ ^{ーム} 全長 (d)	$\oplus 10$ 、 $\ominus 5$	1 箇所を測定する。	
		A	テンションビ ^{ーム} 取付幅 (h)	$\oplus 5$ (L、R)	1 箇所を測定する。	
		A	テンションビ ^{ーム} 寸法 (e)	B.H<0.5 $\oplus 2$ 0.5 \leq B.H<1.0 $\oplus 3$ 1.0 \leq B.H $\oplus 4$	1 箇所を測定する。	B : フランジ幅(m) H : 腹板高(m)
		B	ピン中心とト ランカ ^ダ 中心 間の寸法 (f)	$\oplus 2$ (L、R)	1 箇所を測定する。	
		A	対角長の差 (g)	5	基準点間の距離の差を測定する。 ($g = g_1 - g_2 $)	

管 理 方 式		測 定 個 所 標 準 図	摘 要
結果一覧表 によるもの	点 検 表 によるもの		
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			

(2) 高圧ローラゲート寸法

工 種	分類	項 目	管理基準値 (mm)	測 定 基 準			
② 水門設備 ③ ダム用水門設備 (製作)	1. 扉体	A	扉体全幅(a)	±10	上下各1箇所を測定する。		
		A	扉体全高(b)	±10	左右各1箇所を測定する。		
		A	主桁及び端部 桁高さ(c)	B, H < 0.5 ±2 0.5 ≤ B, H < 1.0 ±3 1.0 ≤ B, H ±4	各桁中央部を測定する。	B : フランジ幅(m) H : 腹板高(m)	
		A	水密ゴム受座 から主ローラ踏 面までの距離 (e)	±2、±0	左右各2箇所を測定する。		
		A	基準点对角長 の差(f)	10	基準点間の距離の差を測定する。 ($f = f_1 - f_2 $)		
		A	主ローラ支間長 (g)	±6	各ローラ支間を測定する。		
		A	主ローラ間距離 (h)	±5	各ローラ間を測定する。		
		A	主ローラから扉 体下端までの 距離(i)	±5	左右各1箇所を測定する。		
		A	主ローラ踏面の 偏差(j)	1	左右各1箇所を測定する。		
		B	主ローラ踏面 からサイドローラ までの距離 (k)	±5	上下について測定する。		
		B	水密幅(l)	±6	長さ2mごとにゴム受座中心間距離を測定する。		
		B	水密高(m)	±5	長さ2mごとにゴム受座中心間距離を測定する。		
		A	吊り中心間距 離(n)	±10	1箇所を測定する。		
		A	主桁間隔(o)	±5	左右各1箇所を測定する。		
		B	サイドローラ踏面 間距離(p)	±10	各サイドローラ踏面間を測定する。		
		B	吊り中心とス プレート間の距 離(q)	±3	左右各1箇所を測定する。		
		A	底部の曲がり (r)	±3			
		A	水密ゴム受座 面の真直度 (t)	2			
		A	扉体の平面度 (u)	小形 3 中形 5 大形 7	fの対角基準点4箇所とその交点の計5箇所を 測定する。 小形水門：扉体面積10㎡未満 中形水門：扉体面積10㎡以上50㎡未満 大形水門：扉体面積50㎡以上		

管 理 方 式		測 定 個 所 標 準 図	摘 要
結果一覧表 によるもの	点 検 表 によるもの		
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			

工 種	分類	項 目	管理基準値 (mm)	測 定 基 準	
② 水門設備 ③ ダム用水門設備 (製作)	2. 戸当り	A	呑口幅 (a)	± 10	上下各 1 箇所を測定する。
		A	呑口高 (b)	± 5	左右各 1 箇所を測定する。
		A	水密幅 (c)	± 10	長さ 2m ごとに測定する。
		A	水密高 (d)	± 5	長さ 2m ごとに測定する。
		A	主ローラ踏面板 中心間距離 (e)	± 10	上下中央各 1 箇所を測定する。
		B	戸溝の幅 (g)	± 3	上下中央各 1 箇所を測定する。
		B	主ローラ踏面板 と水密板の間 隔 (h)	± 1	上下中央各 1 箇所を測定する。
		B	側部戸当りと 底部戸当りの 関係位置 (i)	± 3	左右各 1 箇所を測定する。
		B	戸当り高さ (j)	± 10	左右各 1 箇所を測定する。
		B	対角長の差 (l)	10	基準点間の距離の差を測定する。 ($l = l_1 - l_2 $)
		A	主ローラ踏面板 (n)	1 (3) 0.5(1.5)mm/m	真直度 ()内は軽構造部 平面度 ()内は軽構造部
		A	上部水密面 (p)	2 0.5(1.5)mm/m	真直度 平面度 ()内は軽構造部

管 理 方 式		測 定 個 所 標 準 図	摘 要
結果一覧表 によるもの	点 検 表 によるもの		
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			

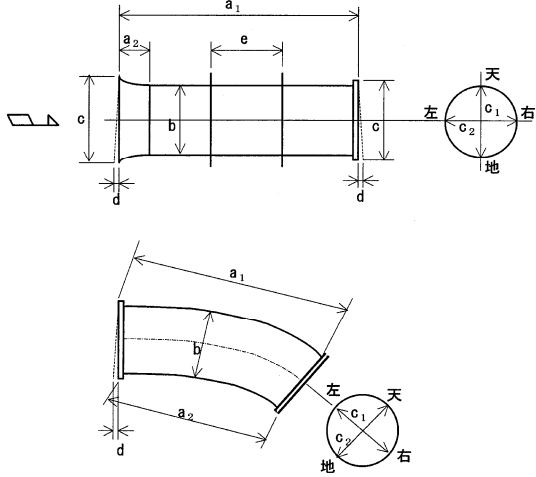
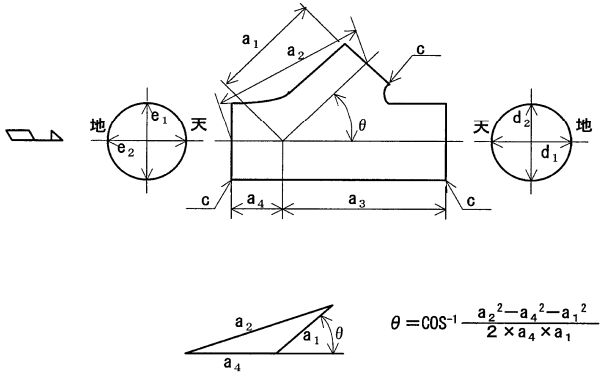
(3) 小容量放流ゲート・バルブ寸法

工 種	分類	項 目	管理基準値 (mm)	測 定 基 準		
② 水門設備 ③ ダム用水門設備 (製作)	1. 高圧スライドゲート (HPSG)、ジェットフローゲート (JFG)	B	扉体幅 (a)	⊕2	「共通」 上下各 1 箇所を測定する。	
		A	扉体高 (b)	⊕1	「共通」 左右各 1 箇所を測定する。	
		A	扉体の厚さ (c)	B, H < 0.5 ⊕2 0.5 ≤ B, H < 1.0 ⊕3 1.0 ≤ B, H ⊕4	「共通」 各桁左右各 1 箇所を測定する。	B : フランジ幅 (m) H : 腹板高 (m)
		A	戸溝の幅 (d)	⊕1	「共通」 左右につき上下 2 箇所を測定する。	
		A	ケーシング高さ (e)	⊕3	「共通」 左右各 1 箇所を測定する。	
		A	ケーシング高さ (f)	⊕2	「共通」 左右各 1 箇所を測定する。	
		A	ボンネットカバーの高さ (g)	⊕2	「共通」 左右各 1 箇所を測定する。	
		A	上流側ケーシング長さ (h)	⊕2	「共通」 左右各 1 箇所を測定する。	
		A	下流側ケーシング長さ (i)	⊕2	「共通」 左右各 1 箇所を測定する。	
		A	上流側管胴幅 (j)	⊕3	「HPSG」 上下各 1 箇所を測定する。	
		A	上流側管胴高 (k)	⊕3	「HPSG」 左右各 1 箇所を測定する。	
		A	下流側管胴幅 (l)	⊕3	「HPSG」 上下各 1 箇所を測定する。	
		A	下流側管胴高 (m)	⊕3	「HPSG」 左右各 1 箇所を測定する。	
		A	ケーシング幅 (n)	⊕5	「共通」 上下各 1 箇所を測定する。	
		B	上流側ボルト穴 P.C.D (o)	⊕1	「JFG」 2 箇所を測定する。	
		A	シールリング口径 (q)	⊕2、⊖0	「JFG」 2 箇所を測定する。	
		A	上流管口径 (s)	⊕3	「JFG」 2 箇所を測定する。	
		A	全長 (u)	⊕3	「共通」 左右各 1 箇所を測定する。	
		B	ゲート垂直度 (v)	2	「共通」 左右各 1 箇所を測定する。 ※検査状態で可能な場合計測する。	

管 理 方 式		測 定 個 所 標 準 図	摘 要
結果一覧表 によるもの	点 検 表 によるもの		
様式1-1		<p>高圧スライドゲート(HPSG)</p>	
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			

(4) 小容量放流管寸法

工 種	分類	項 目	管理基準値 (mm)	測 定 基 準		
② 水門設備 ③ ダム用水門設備 (製作)	1. 放流管	A	単位管長 (a)	±5	左右各 1 箇所を測定する。 a ₁ : フランジの内側 (管内面) で測定する。 a ₂ : フランジの外側で測定する。 なお、曲り角度の大きい場合 (管内側での測定が出来ない場合) の a ₁ は管中心で測定する。	
		A	管径 (b)	±1.0%	内径天地左右を管端、中央の 3 箇所を測定する。	
		A	真円度 (c)	±0.5%	管端 2 箇所を測定する。	
		B	管端面の傾き (d)	±0.5	フランジ継手	天地左右を測定する。
				±3	溶接継手	
	A	補剛材の間隔 (e)	±10			
	2. トランジション 管	A	管長 (a)	±5	左右各 1 箇所を測定する。	
		A	管径 (b)	±3	フランジ部を対角に測定する。	
		A	管幅 (c)	±4	上下各 1 箇所を測定する。	
		A	管高 (d)	±3	左右各 1 箇所を測定する。	
		B	対角長の差 (e)	3	$e = e_1 - e_2 $	
		B	管端面の傾き (f)	±0.5	フランジ継手	天地左右を測定する。
				±2	溶接継手	
	B	補剛材の間隔 (g)	±10			
	3. 分岐管	A	管長 (a)	±5		
		A	分岐角度 (θ)	±30'	単位管長を測定し、計算により算出する。	
		A	管径 (c)	±0.25%		
		A	真円度 (d)	±1.00%	管端で測定する。	
		B	管端面の傾き (f)	±0.5	フランジ継手	天地左右を測定する。
	±2			溶接継手		
	4. 充水管	A	単位管長 (a)	±5		
	5. 空気管	A	単位管長 (a)	±5		

管 理 方 式		測 定 個 所 標 準 図	適 要
結果一覧表 によるもの	点 検 表 によるもの		
様式1-1		<p>1. 放流管</p> 	
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1		<p>3. 分岐管</p>  $\theta = \cos^{-1} \frac{a_2^2 - a_4^2 - a_1^2}{2 \times a_4 \times a_1}$	
様式1-1			

(5) 直線多段式ゲート寸法

工 種	分類	項 目	管理基準値 (mm)	測 定 基 準			
② 水門設備 ③ ダム用水門設備 (製作)	1. 扉体	A	扉体幅 (a)	±10	上下各1箇所を測定する。		
		A	扉体高 (b)	±10	左右各1箇所を測定する。		
		A	主桁の高さ (c)	B.H<0.5 ±2 0.5≤B.H<1.0 ±3 1.0≤B.H ±4	各桁中央を測定する。	B : フランジ幅(m) H : 腹板高(m)	
		A	端縦桁の高さ (d)	B.H<0.5 ±2 0.5≤B.H<1.0 ±3 1.0≤B.H ±4	左右につき上下中央の3箇所 を測定する。	B : フランジ幅(m) H : 腹板高(m)	
		A	水密ゴム受座 面から主ローラ 踏面までの距 離 (e)	±3	左右につき上下中央の3箇所を測定する。		
		A	対角長の差 (f)	10	基準点間の距離の差を測定する。 (f = f ₁ - f ₂)		
		A	主ローラ支間長 (g)	±10	各ローラ間を測定する。		
		A	主ローラ中心間 距離 (h)	±5			
		A	主ローラから扉 体下端までの 距離 (i)	±5			
		A	主ローラ踏面の 偏差 (j)	1			
		B	主ローラ踏面か らサイトローラの 距離 (k)	±5			
		B	水密ゴム受座 距離 (l)	±10、±6	高さ3mごとに測定する。		
		B	吊り中心間隔 (m)	±10	上段扉について測定する。		
		B	主桁間隔 (n)	±5	左右各1箇所を測定する。		
		B	サイトローラ間隔 (o)	±10			
		B	吊り中心とス プレート間の距 離 (p)	±3	上段扉について測定する。		
		B	底部の曲がり (q)	±3	下段扉着地の場合に測定する。		

管 理 方 式		測 定 個 所 標 準 図	摘 要
結果一覧表 によるもの	点 検 表 によるもの		
様式1-1		<p>1. 扉体</p> <p>The drawing shows three views of a door body. The top view is a rectangle with width o and m. It features a diagonal cross with lines f_1 and f_2. A horizontal dimension $任意$ is shown near the top corners, and a vertical dimension $基準点$ is indicated. The left side has vertical dimensions h_1, h_2, and i, with a total height b. A bottom dimension q is shown. The bottom view shows a rectangle with width g and l, and a horizontal dimension a. A vertical dimension c is shown, and a diagonal dimension d is indicated. The side view shows a horizontal dimension e and a vertical dimension p. A horizontal dimension k is shown, and a vertical dimension j is indicated. The bottom view also shows dimensions n_5, n_4, n_3, n_2, n_1 from left to right.</p>	
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			

工 種	分類	項 目	管理基準値 (mm)	測 定 基 準	
2 水門設備 ③ダム用水門設備 (製作)	2. 整流板	A	整流板形状 (a)	±5	
		A	整流板幅 (c)	±10	
		A	整流板中心からガイドローラ中心までの距離 (d)	±10	
		B	シートの間隔 (e)	±10	
		B	連結ロッドの間隔 (f)	±6	
	3. 戸当り	A	純径間 (a)	±6、±10	底部敷金物のみ測定する。
		B	戸溝の幅 (e)	±3	高さ5mごとに測定する。
		B	戸当り高さ (h)	±10	
		B	底部戸当り表面真直度 (j _s)	3	水平基準からの距離を測定する。
		B	底部戸当り表面平面度 (j _f)	1mm/m	長さ1mにつき
		A	主ローラ踏面板真直度 (k _s)	2 (4)	()内は軽構造部
		A	主ローラ踏面板平面度 (k _f)	2mm/m	長さ1mにつき
		A	側部水密面真直度 (l _s)	2	水平基準からの距離を測定する。
		A	側部水密面平面度 (l _f)	2mm/m	長さ1mにつき
		B	サイトローラ踏面板真直度 (m _s)	5	水平基準からの距離を測定する。
		B	サイトローラ踏面板平面度 (m _f)	2(3)mm/m	長さ1mにつき ()内は軽構造部
		4. スクリーン	B	スクリーンパネル枠寸法 (a)	±10
	B		スクリーンパネルのピッチ (b)	±2	左右各1箇所を測定する。
	B		通しボルトのピッチ (c)	±3	
	B		スクリーン受桁の外形寸法 (d)	±5	

管 理 方 式		測 定 個 所 標 準 図	摘 要
結果一覧表 によるもの	点 検 表 によるもの		
様式1-1		<p>2. 整流板</p>	
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1		<p>3. 戸当り</p>	
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1		<p>4. スクリーン</p>	
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			

(6) 円形多段式ゲート寸法

工 種	分類	項 目	管理基準値 (mm)	測 定 基 準		
2 水門設備 ③ダム用水門設備 (製作)	1. 扉体	A	扉体高さ (a)	±10		
		A	扉体内径 (b)	D<1.5 ±5 1.5≤D≤3.0 ±15 3.0<D ±20	上下各2箇所を測定する。	D:径 (m)
		B	扉体補強リング 外径 (c)	D<1.5 ±5 1.5≤D≤3.0 ±15 3.0<D ±20	2箇所を測定する。	D:径 (m)
		B	扉体補強リング 間隔 (d)	±10		
		B	ゲートローラ間距 離 (e)	±10	各ローラ間距離を測定する。	
		B	ゲートローラから 扉体下端まで の距離 (f)	±10		
		B	ストップから扉 体下端までの 距離 (h)	±10		
		B	底部の曲がり (i)	±5	下段扉着床の場合測定する。	
		B	取水盤呑口形 状寸法 (j)	±3		
		B	取水盤張出し 外径 (k)	±10		
		A	制水蓋の外径 (l)	±10		

管 理 方 式		測 定 個 所 標 準 図	摘 要
結果一覧表 によるもの	点 検 表 によるもの		
様式1-1		<p>側面部詳細</p> <p>取水盤</p> <p>制水盤</p>	
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			

工 種	分類	項 目	管理基準値 (mm)	測 定 基 準	
2 水門設備 ③ダム用水門設備 (製作)	2. 整流板	A	整流板形状 (a)	±5	
		A	整流板外径 (c)	±10	
		B	整流板中心か らローラ中心ま での距離 (d)	±10	
		B	シートの間隔 (e)	±10	
	3. 取水塔	B	支柱間隔 (a)	±10	
		B	支柱の高さ (b)	±10	高さ20mごとに測定する。(累積高さ±25mm)
		B	水平材の間隔 又はブロック高 さ (c)	±10	
		B	対角長の差 (d)	20	基準点間の距離の差を測定する。 ($d = d_1 - d_2 $)
		B	ガイドローラレール 間隔 (g)	±10	
		A	支柱の真直度 (j)	20	

管 理 方 式		測 定 個 所 標 準 図	摘 要
結果一覧表 によるもの	点 検 表 によるもの		
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			

(7) 開閉装置寸法

工 種	分類	項 目	管理基準値 (mm)	測 定 基 準
② 水門設備 ③ ダム用水門設備 (製作)	1. ワイヤロープウインチ式	①河川・水路用水門設備 (製作)	(5) 開閉装置	1. ワイヤロープウインチ式による。
	2. ラック式	①河川・水路用水門設備 (製作)	(5) 開閉装置	2. ラック式による。
	3. スピントル式	①河川・水路用水門設備 (製作)	(5) 開閉装置	3. スピントル式による。

管 理 方 式		測 定 個 所 標 準 図	摘 要
結果一覧表 によるもの	点 検 表 によるもの		

(1) クレストラジアルゲート寸法

工 種	分類	項 目	管理基準値 (mm)	測 定 基 準	
2 水門設備 ③ダム用水門設備 (据付)	1. 扉体	B	トランポン間の 水平距離 (b)	± 2	トランポンの外側間隔を測定する。
		A	扉体半径 (c)	± 8	トランポン中心の上下流方向へのずれを測定する。
		B	扉体幅 (d)	± 6	上下各1箇所を測定
		A	扉体の弧長 (f)	± 10	スキンプレート外側を測定測定する。
		A	対角長の差 (i)	5	基準点間の距離の差を上・下脚について測定 ($i = i_1 - i_2 $)
		A	脚柱の曲がり (o)	± 10 $\pm c/1,000$	扉体半径 c が 10,000 mm 以上の場合 扉体半径 c が 10,000 mm 未満の場合
	2. 戸当り	A	側部戸当り半 径 (d)	± 5	弧長 2m ごとに測定する。
		A	水密面の平面 度 (j)	2mm/m	長さ 1m につき
		A	鉛直度 (k)	3	戸当り面鉛直度を測定する。
		A	純径間 (l)	± 4 、 ± 6	上中下部を測定する。
		A	側部戸当りと 底部戸当りの 直角度 (m)	± 3	左右戸当り間の対角長を測定する。
	3. アンカレ ージ	A	トランポン中心 の左右高低差 (k)	± 1	
		A	トランポンの水 平距離 (l)	± 2	

管 理 方 式		測 定 個 所 標 準 図	摘 要
結果一覧表 によるもの	点 検 表 によるもの		
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			

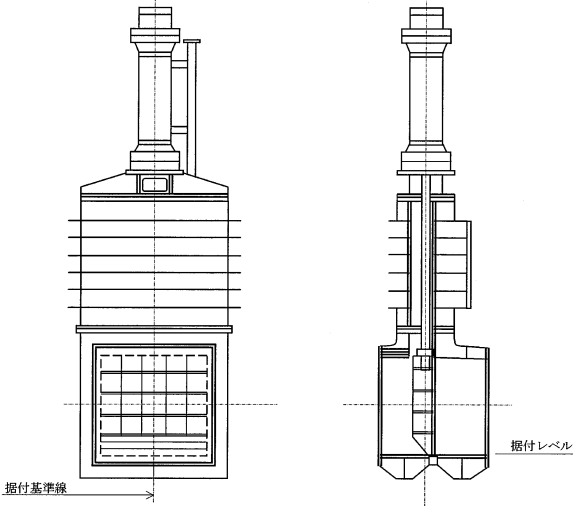
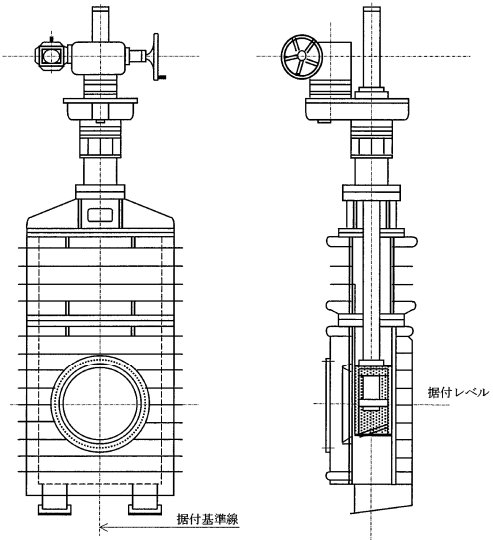
(2) 高圧ローラゲート寸法

工 種	分類	項 目	管理基準値 (mm)	測 定 基 準	
2 水門設備 ③ダム用水門設備 (据付)	1. 扉体	A	扉体全幅 (a)	± 10	上下各 1 箇所を測定する。
		A	扉体全高 (b)	± 10	左右各 1 箇所を測定する。
		A	水密ゴム受座から主ローラ踏面までの距離 (e)	± 2 、 $\ominus 0$	上下各 1 箇所を測定する。
		B	対角長の差 (f)	10	基準点間の距離の差を測定する。 ($f = f_1 - f_2 $)
		A	主ローラ支間長 (g)	± 6	各ローラ支間を測定する。
		A	主ローラ踏面の偏差 (j)	1	1 箇所を測定する。
		B	水密幅 (l)	± 6	長さ 2m ごとにゴム受座中心間距離を測定する。
		B	水密高 (m)	± 5	長さ 2m ごとにゴム受座中心間距離を測定する。
	2. 戸当り	A	呑口幅 (a)	± 10	上下各 1 箇所を測定する。
		A	呑口高 (b)	± 5	左右各 1 箇所を測定する。
		A	主ローラ踏面板中心間距離 (e)	± 10	上下中央各 1 箇所を測定する。
		B	主ローラ踏面板と水密板の間隔 (h)	± 2	上下中央各 1 箇所を測定する。
		B	戸当り高さ (j)	± 10	左右各 1 箇所を測定する。
		B	対角長の差 (l)	10	基準点間の距離の差を測定する。 ($l = l_1 - l_2 $)
		A	主ローラ踏面板 (n)	1 (3) 0.5(1.5)mm/m	真直度 ()内は軽構造部 平面度 ()内は軽構造部
		A	上部水密面 (p)	2 0.5(1.5)mm/m	真直度 平面度 ()内は軽構造部
		A	底部戸当り表面 (q)	2 0.5mm/m	真直度 平面度

管 理 方 式		測 定 個 所 標 準 図	摘 要
結果一覧表 によるもの	点検表 によるもの		
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			

(3) 小容量放流ゲート・バルブ寸法

工 種	分類	項 目	管理基準値 (mm)	測 定 基 準	
② 水門設備 ③ ダム用水門設備 (据付)	1. 高圧スライド ゲート、ジェット フローゲート	B	基準線 (a)	±1	
		B	標高 (b)	±5	管中心又は底面を測定する。
		B	傾斜度 (c)	-	
		B	垂直度 (d)	±2	

管 理 方 式		測 定 個 所 標 準 図	摘 要
結果一覧表 によるもの	点 検 表 によるもの		
様式1-1		<p>高圧スライドゲート</p>  <p>据付基準線</p> <p>据付レベル</p> <p>ジェットフローゲート</p>  <p>据付基準線</p> <p>据付レベル</p>	
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			

(4) 小容量放流管寸法

工 種	分類	項 目	管理基準値 (mm)	測 定 基 準
2 水門設備 ③ダム用水門設備 (据付)	1. 放流管	B	据付基準線か らの距離 (a)	±10
		B	管標高 (b)	±5
	2. トランジ ション管	A	据付基準線か らの距離 (a)	±10
		A	管標高 (b)	±5
	3. 分岐管	A	据付基準線か らの距離 (a)	±10
		B	管標高 (b)	±5

管 理 方 式		測 定 個 所 標 準 図	摘 要
結果一覧表 によるもの	点 検 表 によるもの		
様式1-1		<p>1. 放流管</p>	
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1		<p>2. トランジション管</p>	
様式1-1		<p>3. 分岐管</p>	

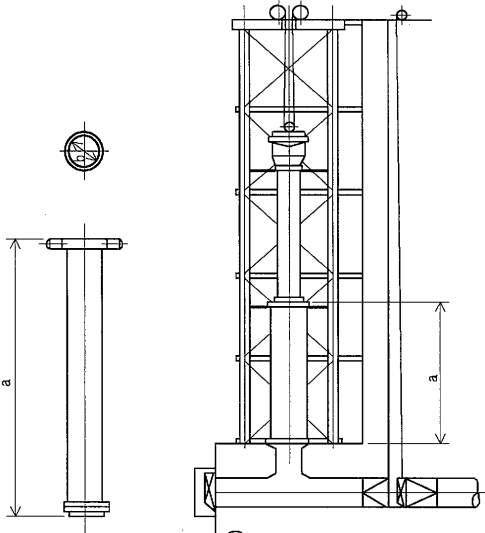
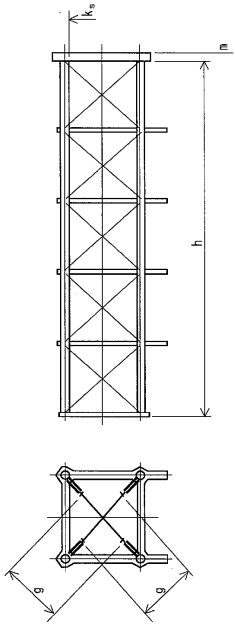
(5) 直線多段ゲート寸法

工 種	分類	項 目	管理基準値 (mm)	測 定 基 準	
2 水門設備 ③ダム用水門設備 (据付)	1. 扉体	A	扉体幅 (a)	± 10	上下各 1 箇所を測定する。
		A	扉体高 (b)	± 10	左右各 1 箇所を測定する。
		A	主ローラ支間長 (g)	± 10	各ローラ間を測定する。
		A	主ローラ踏面の 偏差 (j)	± 1	
		B	吊り中心間隔 (m)	± 10	上段扉について測定する。
		B	吊り中心とス トプレート間の距 離 (p)	± 3	上段扉について測定する。
		B	吊り状態での 扉体の傾き (u)	± 5	左右岸方向のずれを測定する。
	2. 戸当り	A	純径間 (a)	± 6 、 ± 10	
		B	戸当り高さ (h)	± 10	
		B	底部戸当り表 面 (j _f)	3 1mm/m	真直度 平面度
		A	主ローラ踏面板 (k _f)	2 (4) 2mm/m	真直度 ()内は軽構造部 平面度
	3. スクリー ン	B	各スクリーンパ ネルの配置 (e)	± 10	
		B	スクリーン受桁の 配置 (f)	± 5	

管 理 方 式		測 定 個 所 標 準 図	摘 要
結果一覧表 によるもの	点 検 表 によるもの		
様式1-1		<p>1. 扉体</p>	
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			

(6) 円形多段ゲート寸法

工 種	分類	項 目	管理基準値 (mm)	測 定 基 準	
② 水門設備 ③ ダム用水門設備 (据付)	1. 扉体	B	扉体高さ (a)	±10	D : 径 (m)
		A	扉体内径 (b)	D<1.5 ±5 1.5≤D≤3.0 ±15 3.0<D ±20	
	2. 取水塔	B	ゲイトローレル 間隔 (g)	±10	高さ20mごとに測定する。(累計高さ±25mm)
		B	ゲイトローレル 高さ (h)	±10	
		A	ゲイトローレル 真直度 (k _s)	20	
		B	塔頂の標高 (m)	±25	

管 理 方 式		測 定 個 所 標 準 図	摘 要
結果一覧表 によるもの	点 検 表 によるもの		
様式1-1		<p>1. 扉体</p> 	
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1			
様式1-1		<p>2. 取水塔</p> 	

(7) 開閉装置寸法

工 種	分類	項 目	管理基準値 (mm)	測 定 基 準
② 水門設備 ③ ダム用水門設備 (据付)	1. ワイヤロープウインチ式	①河川・水路用水門設備 (据付)	3. 開閉装置	(1) ワイヤロープウインチ式による。
	2. ラック式	①河川・水路用水門設備 (据付)	3. 開閉装置	(2) ラック式による。
	3. スピンドル式	①河川・水路用水門設備 (据付)	3. 開閉装置	(3) スピンドル式による。

管 理 方 式		測 定 個 所 標 準 図	摘 要
結果一覧表 によるもの	点 検 表 によるもの		

